

Syllabus

シラバス

2026年度

Nagasaki
University
School
of
Dentistry

長崎大学歯学部

歯学部の授業内容は歯科大学学長・歯学部長会議で定めた「歯科医学教授要綱」にそって行われており、さらに授業方法は担当教員一人ひとりの創意、工夫に委ねられている。したがって、それぞれの科目の授業の特色を知って出席することが、授業を実り多いものにするのに欠かせない。

「シラバス」 syllabus（授業計画書）とは、学生諸君が初めて出会う授業に戸惑わないよう、その内容や方法をあらかじめ伝え、一方通行ではない、大学らしい授業を行うために各担当者により執筆されたガイドブックである。

ここに盛られているのは、授業の概要及び位置づけ、授業の到達目標、授業の方法、教科書と参考書、成績評価の方法、注意事項、それに順を追った授業計画である。「シラバス」に目を通すことによって、担当教員がこの授業によって何を伝えようとしているのか、どういう進め方をするのか、学生に何を準備して授業に参加してほしいと期待しているかがわかるはずである。授業を受ける前に熟読すれば、効果的な予習の役に立ち、また復習や試験勉強の格好のガイドにもなる。教員の要求する準備をして授業に臨めば、共通のベースに立脚した質疑応答が活発に行われ、双方向的な授業の展開が可能になるだろう。

さらに、全学的な授業評価アンケートも実施しているので、学生側からの意思表示もより明確にできると考える。

なお、臨床実習を開始するに十分な知識の有無を問う共用試験（CBT・OSCE）は、教育ガイドラインである歯学教育モデル・コア・カリキュラムに対応し実施されている。

臨床実習に関しては、別に用意した詳細な「臨床開始前実習の手引」及び「臨床実習の手引」が「シラバス」に相当するので、本冊子には含まれていない。

授業を受けるにあたって、該当科目の「シラバス」を十分に活用し、下記の歯学部の理念を念頭に、教育目標を達成してほしい。

歯学部の理念

基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を修得し、今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓くとともに社会に信頼される歯科医師および研究者を養成する。

歯学部の教育目標

- (1) 責任感、社会性を持ち、歯科医師としての倫理観と豊かな人間性を身につけている。
- (2) コミュニケーション能力と協調性を身につけている。
- (3) 生命科学へのリサーチマインドを身につけている。
- (4) 離島等の地域歯科医療について、保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる。
- (5) 先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけている。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、各授業の担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談ください。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

(TEL) 095-819-2006 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp

歯学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版) 概要

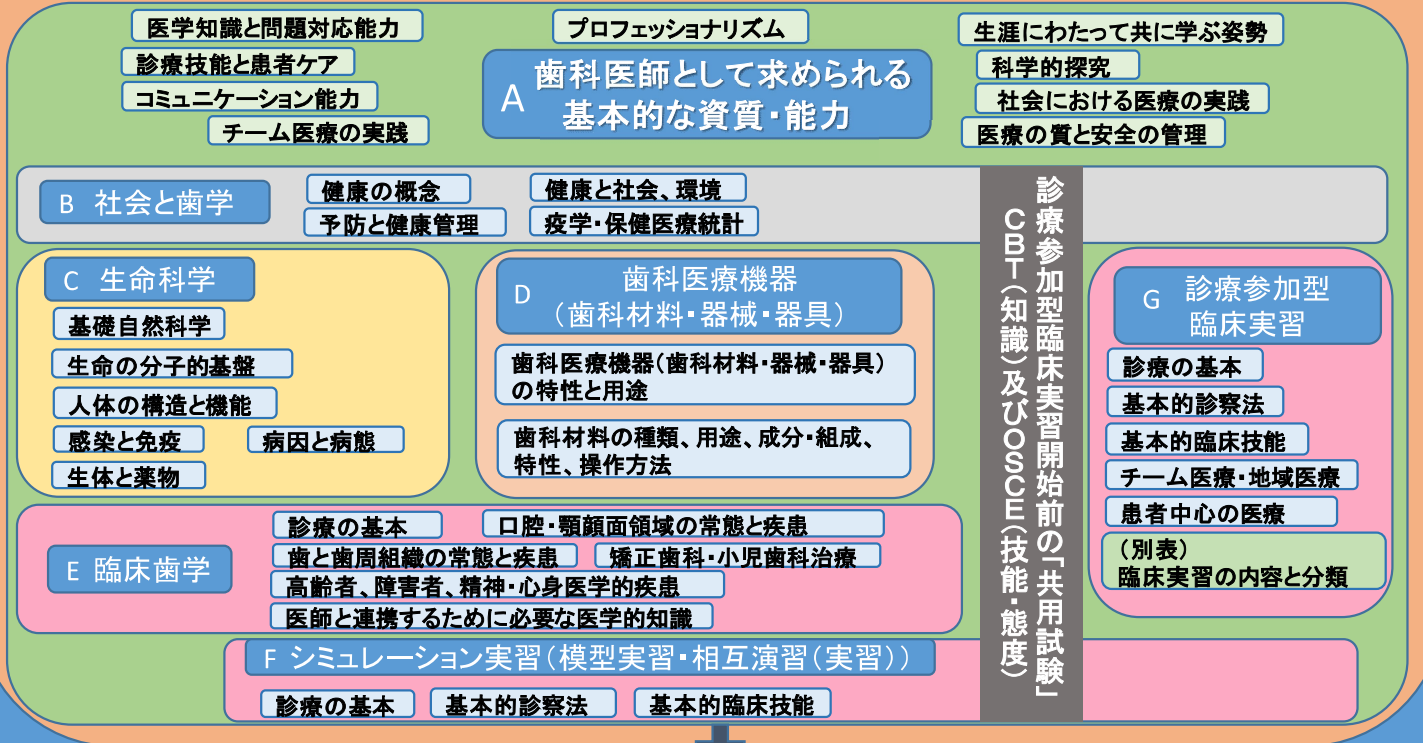
- 学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
- 学生の学修時間数の6割程度を目安としたもの
- 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

【各大学のアドミッション・ポリシー】

【各大学のカリキュラム・ポリシー】

【各大学のディプロマ・ポリシー】

多様なニーズに対応できる歯科医師の養成



各大学の特色ある独自のカリキュラム(学生の学修時間数の4割程度)

※ 各大学が教育理念に基づいて設置する独自の教育内容(学生が自主的に選択できるプログラムを含む)

歯科医師法に基づく歯科医師国家試験(知識)

診療参加型臨床実習終了時の技能・態度評価

医学/歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの。
- 初版は平成13年3月に策定。医療を取り囲む環境変化に伴い改訂（平成19年度、22年度、28年度）。
- 学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）に関する学修目標を明確化。
- 学生の学修時間数の医学:3分の2程度、歯学:6割程度を目安としたもの（残りは各大学の特色ある独自のカリキュラムを実施）。

キャッチ
フレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」



人口減地域の
増加

新興感染症・
災害リスクの増大



高齢化率の
上昇



新規科学技術の
台頭



「医師/歯科医師に求められる基本的な資質・能力」を共通化（赤字は新設）

PR. プロフェッショナリズム

IT. 情報・科学技術を活かす能力

GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢

CS. 患者ケアのための診療技能

LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

CM. コミュニケーション能力

RE. 科学的探究

IP. 多職種連携能力

PS. 専門知識に基づいた問題解決能力

SO. 社会における医療の役割の理解



令和8年度歯学部行事予定表

— 前 期 —

学年開始	4月 1日 (水)
授業開始 (2～6年)	4月 1日 (水)
入学式	4月 2日 (木)
新入生学部オリエンテーション (1年)	4月 3日 (金)
入学時ワークショップ (1年)	4月 4日 (土)
授業開始 (1年)	4月 6日 (月)
臨床開始前実習 (5年)	5月 7日 (木) ～ 10月 2日 (金)
CBT (5年)	6月 16日 (火)
OSCE (5年)	7月 25日 (土)
前期定期試験時間割発表	7月 9日 (木)
授業終了 (1～4年)	7月 28日 (火)
授業終了 (5年)	7月 24日 (金)
定期試験期間 (1年)	8月 3日 (月) ～ 4日 (火)
定期試験期間 (2～4年)	7月 23日 (木) ～ 31日 (金)
定期試験期間 (5年)	8月 17日 (月) ～ 21日 (金)
夏季休業 (1年)	8月 5日 (水) ～ 9月 25日 (金)
夏季休業 (2～4年)	8月 3日 (月) ～ 9月 25日 (金)
夏季休業 (5年)	7月 27日 (月) ～ 8月 14日 (金)、 8月 24日 (月) ～ 9月 18日 (金)
CBT追再試験 (5年)	8月 4日 (火)
OSCE追再試験 (5年)	8月 22日 (土)
臨床知識理解度試験 (6年)	8月 17日 (月) ～ 18日 (火)
臨床知識理解度試験追試験 (6年)	8月 19日 (水) ～ 20日 (木)
追・再試験時間割発表 (1～4年)	8月 7日 (金)
追・再試験時間割発表 (5年)	8月 24日 (月)
追試験期間 (1～4年)	8月 17日 (月) ～ 18日 (火)
追試験期間 (5年)	8月 25日 (火) ～ 26日 (水)
再試験期間 (1年)	8月 24日 (月) ～ 25日 (火)
再試験期間 (2～4年)	8月 24日 (月) ～ 26日 (水)
再試験期間 (5年)	8月 31日 (月) ～ 2日 (水)
CSX (6年)	9月 10日 (木)
CSX追試験 (6年)	9月 24日 (木)
臨床知識理解度試験再試験 (6年)	9月 14日 (月) ～ 15日 (火)
前期成績発表	9月の指定する日

— 後 期 —

授業開始	9月28日(月)
臨床実習(5年)	10月5日(月)～翌年度9月末
卒業認定試験(6年)	10月22日(木)～23日(金)
解剖体慰霊祭	10月22日(木)
歯学部祭	10月中旬～11月下旬頃
卒業認定試験追再試験(6年)	11月12日(木)～13日(金)
冬季休業(1～4年)	12月24日(木)～12月31日(木)
後期定期試験時間割発表	1月19日(火)
授業終了(1～4年)	2月1日(月)
定期試験期間(1年)	2月2日(火)、8日(月)
定期試験期間(2～4年)	2月2日(火)～8日(月)
追・再試験時間割発表(1～4年)	2月10日(水)
追試験期間(1年)	2月15日(月)
追試験期間(2～4年)	2月12日(金)
再試験期間(1年)	2月22日(月)
再試験期間(2～4年)	2月17日(水)～19日(金)
卒業式	3月25日(木)
学年終了	3月31日(水)
後期成績発表	3月の指定する日

令和8年度歯学部カレンダー(5年次)

前期:4月1日(水)～9月25日(金)

後期:9月28日(月)～3月31日(水)

	日	月	火	水	木	金	土
R8年 4月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土
9月	27	28	29	30	1	2	3
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
12月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
R9年 1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
3月	28	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

- 授業日
- 定期試験日
- 追試験日
- 再試験日
- CBT試験日(6月12日(金)午後はCBT体験テスト)
- CBT追再試験日
- OSCE試験日
- OSCE追再試験日

(令和8年度)歯学部授業時間割
(前期)(1Q・2Q)

曜日	I		II		III		IV		V		
	8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50	
学年	1	2	3	4	5	6	7	8			
月	1	歯科学のための物理科学(講3B)	細胞生物学入門Ⅰ(講3B)	歯学展望(講3B)	骨学及び同実習(歯解実・講3B・医2講・医1実)			教養教育:初年次セミナー(坂本)			
	2	教養教育									
	3	微生物学・口腔微生物学(講3A)			薬理学及び同実習(講3A・実5C)						
	4	歯科矯正学及び同実習(講6A・臨4B)			予防歯科学及び同実習(講6A・臨4B)				基礎歯学研究		
	5	統合科目(講6B)									
	6	臨床実習								基礎歯学輪講(講3A)	
火	1	(1Q)学内・学外早期体験実習/(2Q)歯科医師のコンピテンシーⅠ(講3B)		細胞生物学プラクティス(講3B)		教養教育:初年次セミナー(坂本)					
	2	教養教育									
	3	薬理学及び同実習(講3A・実5C)	(1Q)微生物学・口腔微生物学(講3A)/(2Q)病理学総論及び同実習(講3A・実5B)			病理学総論及び同実習(講3A・実5B)					
	4	歯科矯正学及び同実習(講6A)	保存修復学(講6A)		保存修復学実習(臨4B)						
	5	統合科目(講6B)									歯学研究
	6	臨床実習									
水	1	教養教育									
	2	生理学(講3B)/生理学実習(実5C)		(1Q)教養教育:歯科学のための生物科学(講3B)		(1Q)教養教育:歯科学のための化学(講3B)					
	3	歯科理工学Ⅰ/歯科理工学Ⅱ/歯科理工学Ⅲ(講3A)			口腔組織学及び同実習(講3A・実5B)						
	4	(1Q)災害口腔医学/(2Q)小児歯科学・小児歯科学実習(講6A)	歯内治療学(講6A)		歯内治療学実習(臨4B)						
	5	統合科目(講6B)									
	6	臨床実習								歯学研究	
木	1	教養教育									
	2	解剖学及び同実習(講3B・歯解実)							歯科医師のコンピテンシーⅡ(講3B)		
	3	内科学総論(講3A)		歯科東洋医学(講3A)/Scientific and Practical English(講3A)							
	4	障害者歯科学(講6A)	歯科医師のコンピテンシーⅣ(講6A)	冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)							
	5	統合科目(講6B)									
	6	臨床実習									
金	1	教養教育									
	2	生化学(講3B)		発生学(講3B)		生理学(講3B)/生理学実験(実5C)					
	3	外科学総論(講3A)	口腔解剖学及び同実習(歯解実・講3A)			コミュニティー教育・実習(講3A)			(1Q)基礎歯学研究概論(講3A)/(2Q)基礎歯学研究		
	4	歯科麻酔学及び同実習(講6A)				有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)					
	5	統合科目(講6B)									
	6	臨床実習								基礎歯学輪講(講3A)	

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A(C棟3階)
講3B・・・講義室3B(C棟3階)
講6A・・・講義室6A(C棟6階)
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)
実5B・・・実習室5B(C棟5階)
実5C・・・実習室5C(C棟5階)
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)
医2講・・・医学部第2講義室
医1実・・・医学部第1実習室

時間割

90分授業
1校時 8:50-10:20
2校時 10:30-12:00
3校時 13:00-14:30
4校時 14:40-16:10
5校時 16:20-17:50

60分授業
1校時 8:50-9:50
2校時 10:00-11:00
3校時 11:10-12:10
4校時 13:00-14:00
5校時 14:10-15:10
6校時 15:20-16:20
7校時 16:30-17:30
8校時 17:40-18:40

(令和8年度)歯学部授業時間割
(後期)(3Q・4Q)

曜日	I		II		III		IV		V							
	8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50						
年次	8:50	9:50	10:00	11:00	11:10	12:10	13:00	14:00	14:10	15:10	15:20	16:20	16:30	17:30	17:40	18:40
月	1	細胞生物学入門Ⅱ(講3B)		歯学展望(講3B)												
	2	長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)					長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(オンライン自主学习)									
	3	内科学各論(講3A)			微生物学・口腔微生物学(講3A)		外科学各論(講3A)		(4Q)歯科法医学(講3A)		隣接医学Ⅱ(講3A)					
	4	歯周病学(講6A)			統合科目(スポーツ歯学)/統合科目(総合歯科学Ⅰ)(講6A)		歯周病学実習(臨4B)				基礎歯学研究					
	5	臨床実習														
	6	臨床実習/高次口腔医療学										(3Q)歯科医療管理学(講3A)				
火	1	学内・学外早期体験実習(講3B)														
	2	長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)					生化学実験(実5A)									
	3	(3Q)医学統計学/(4Q)コンピテンシーⅢ(講3A)		口腔病理学及び同実習(講3A・実5B)												
	4	統合科目(臨床解剖学)(講6A・歯解実・医解実)					口腔外科学Ⅰ及び同実習(講6A・臨4B)					実践臨床歯科英会話(講6A)				
	5	臨床実習														
	6	臨床実習/高次口腔医療学										(3Q)コンピテンシーⅣ/臨床歯学セミナー(講6B)		(3Q)歯科医療管理学(講3A)		
水	1	教養教育														
	2	(3Q)長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)					(3Q)長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(オンライン自主学习)									
	3	隣接医学Ⅰ・Ⅱ(講3A)		(4Q)解剖学及び同実習(講6B・歯解実・医解実)					(3Q)歯科理工学実験(講3A・実5C)					(4Q)隣接医学Ⅱ(講3A)		
	4	高齢者歯科学(講6A)			小児歯科学/小児歯科学実習(講6A・臨4B)											
	5	臨床実習														
	6	臨床実習/高次口腔医療学										(3Q)歯科医療管理学(講3B)				
木	1	教養教育														
	2	解剖学及び同実習(講6B・歯解実・医解実)														
	3	(3Q)隣接医学Ⅲ(講3A)		(3Q)口腔微生物学実習(講3A・実5A)												
	4	(4Q)隣接医学Ⅰ・Ⅱ(講3A)		(4Q)衛生学及び同実習(講3A・実5A)					冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)					臨床歯学研究概論(講6A)		
	5	臨床実習														
	6	臨床実習/高次口腔医療学										(3Q)歯科医療管理学(講3B)				
金	1	教養教育														
	2	組織学及び同実習(講6B・実5B)														
	3	歯科薬理学(講3A)/口腔生理学(講3A)					口腔生化学(講3A)					基礎歯学研究				
	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習(講6A・臨4B)					有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)									
	5	臨床実習/医哲学・医療倫理(医学部記念講堂)(10月の2日間)														
	6	臨床実習/高次口腔医療学										(3Q)歯科医療管理学(講3B)				

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A(C棟3階)
講3B・・・講義室3B(C棟3階)
講6A・・・講義室6A(C棟6階)
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)
実5B・・・実習室5B(C棟5階)
実5C・・・実習室5C(C棟5階)
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)
医解実・・・医学部解剖実習室
医講4・・・医学部第4講義室(病院2階)

時間割

90分授業
1校時 8:50-10:20
2校時 10:30-12:00
3校時 13:00-14:30
4校時 14:40-16:10
5校時 16:20-17:50

60分授業
1校時 8:50-9:50
2校時 10:00-11:00
3校時 11:10-12:10
4校時 13:00-14:00
5校時 14:10-15:10
6校時 15:20-16:20
7校時 16:30-17:30
8校時 17:40-18:40

総合科目（1年次生～5年次生）

(1) 学内・学外早期体験実習	(1年) 2
(2) 学内・学外早期体験実習	(1年) 5
(3) 歯学展望	(1年) 8
(4) コミュニティー教育・実習	(3年) 12
(5) 歯科東洋医学	(3年) 15
(6) Scientific and Practical English	(3年) 18
(7) 歯科医師のコンピテンシー I	(1年) 21
(8) 歯科医師のコンピテンシー II	(2年) 23
(9) 歯科医師のコンピテンシー III	(3年) 25
(10) 歯科医師のコンピテンシー IV	(4年) 28
(11) 歯科医師のコンピテンシー V	(5年) 31

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 火・7、金・4～6	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25064422		
科目ナンバリング・コード	DNGD11111098		
授業科目名/(英語名)	歯科医師のコンピテンシーV/(Competence for Dentist V)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義形式	教室	講義室 3A
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝, 長崎県歯科医師会, 高崎智也(非常勤講師)		
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる			
授業到達目標 一般目標 GIO: 医療人として求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する。 個別行動目標 SBOs: 歯学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)参照	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 A-5 チーム医療の実践 A-6 医療の質と安全の管理 A-7 社会における医療の実践 G-4 チーム医療・地域医療		
対応するディプロマポリシー DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。 DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。 DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。			
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, 実習(見学)など			
本講義は地域医療の最前線でご活躍の先生方による講義で、地域歯科医療概説①および地域歯科医療概説②から構成される。			
キーワード	離島医療, 地域包括ケア, 災害医療, 臨床研究, EBM		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	レポート, ポートフォリオ等を中心に, 必要に応じて筆記試験も行う		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	・未定/現役歯科医師が歯科医院における実務経験/歯科医院における診療経験を元に地域医療に関する講義を実施する。		

日程表(歯科医師のコンピテンシーV)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	火	7	地域歯科医療概説①		講義室3A
2回	10	6	火	7	地域歯科医療概説①		講義室6B
3回	10	9	金	4	医療倫理(医歯共修) 医療倫理の基礎と実践 DNAR・終末期を中心に	宮崎大学 板井孝一郎	医学部 第4講義室
4回	10	9	金	5	医療倫理(医歯共修) 医療倫理の基礎と実践 DNAR・終末期を中心に	宮崎大学 板井孝一郎	医学部 第4講義室
5回	10	9	金	6	学び方・キャリア形成(医歯共修) 技術系行政官としての業務 国民の健康な生活の確保に貢献するために	環境省大臣官 房環境保健部 小林秀幸	医学部 第4講義室
6回	10	13	火	7	地域歯科医療概説②(長崎県歯科医師会)		講義室6B
7回	10	20	火	7	地域歯科医療概説②(長崎県歯科医師会)		講義室6B
8回	10	27	火	7	地域歯科医療概説②(長崎県歯科医師会)		講義室3A
9回	10	30	金	4	学び方・キャリア形成(医歯共修) 普通の医・歯学生から抜け出るための医療マネジメント	ハイズ 株式会社 緒方 大輔	医学部 第4講義室
10回	10	30	金	5	医療の質と安全(医歯共修) 医療安全:薬害問題(市販薬の薬害・サリドマイド)	間宮 清	医学部 第4講義室
11回	11	6	金	4	医療の質と安全(医歯共修) 医療安全や医療の質管理	口腔顎顔面 外科学分野 山田朋弘	医学部 第4講義室
12回	11	6	金	5	行動科学(医歯共修) ことばとコミュニケーション	大阪教育大学 多文化教育系 特任准教授 脇 忠幸	医学部 第4講義室
13回	11	6	金	6	行動科学(医歯共修) ことばとコミュニケーション	大阪教育大学 多文化教育系 特任准教授 脇 忠幸	医学部 第4講義室
14回	11	10	火	7	地域歯科医療概説②(長崎県歯科医師会)		講義室6B
15回	11	17	火	7	地域歯科医療概説②(長崎県歯科医師会)		講義室3A
16回	11	24	火	7	地域歯科医療概説①	高崎 智也	講義室3A

口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生、5年次生）

(1) 衛生学及び同実習	(3年)	116
(2) 予防歯科学及び同実習	(4年)	120
(3) 歯科矯正学及び同実習	(4年)	125
(4) 小児歯科学	(4年)	129
(5) 小児歯科学実習	(4年)	132
(6) 保存修復学	(4年)	134
(7) 保存修復学実習	(4年)	137
(8) 歯内治療学	(4年)	140
(9) 歯内治療学実習	(4年)	143
(10) 歯周病学	(4年)	146
(11) 歯周病学実習	(4年)	149
(12) 冠橋義歯学及び同実習	(4年)	152
(13) 有床義歯補綴学及び同実習	(4年)	158
(14) 口腔外科学Ⅰ及び同実習	(4年)	162
(15) 口腔外科学Ⅱ及び同実習	(4年)	164
(16) 歯科放射線学及び同実習	(4年)	167
(17) 歯科麻酔学及び同実習	(4年)	170
(18) 高齢者歯科学	(4年)	173
(19) 障害者歯科学	(4年)	177
(20) 災害口腔医学	(4年)	180
(21) 口腔インプラント学	(5年)	183
(22) 摂食嚥下リハビリテーション学	(5年)	186
(20) 社会歯科学	(5年)	189

年度 2026 学期 IQ	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25054617		
科目ナンバリング・コード	DNGD33391986		
授業科目名/(英語名)	口腔インプラント学/(Oral Implantology)		
対象年次 5年次	講義形態 講義、実習	教室 講義室 6B, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学教室/095-819-7685(内 7685)/毎日 8:00~8:50, 12:10~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	澤瀬 隆, 尾立哲郎, 作山 葵, 右藤友督, 張 暁旭, 小堤涼平, 山本英幸, 津田芙未香 TA 非常勤講師: 柴原清隆, 十河基文, 米澤大地,		
授業の概要/授業到達目標/授業方法(学習指導法) (500 文字) 概要: 一般目標(GIO)は、「患者に対し口腔インプラント治療について正しく説明するために、必要な基礎知識と態度を習得する」とする。実際のインプラント臨床手技の修得には卒業教育が不可欠であるが、インプラントに触れる最初の機会として、ニュートラルでかつ正しい知識の習得を到達目標とする。 行動目標(SBOs)平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム E-3-4- (3) デンタルインプラント ① デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 ② デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。 ③ デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ④ デンタルインプラントの治療計画、治療手順を説明できる。 ⑤ 埋入方法を説明できる。 ⑥ デンタルインプラントの上部構造の印象採得と咬合採得を説明できる。 ⑦ デンタルインプラントの上部構造の製作手順と装着方法を説明できる。 ⑧ メンテナンスの重要性を説明できる。 授業方法: 口腔インプラント学は歯科臨床の集学的科目といわれ、4年生までに履修するほとんど全ての科目がベースとなっている。授業形態は各科専門医からのオムニバス形式とし、講義による必要な知識の解説に加え、外科系補綴系の実習によりインプラント特有の器具やその操作法を実習し、より具体的な理解の助けとする。			
対応するディプロマポリシー DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 概要: 11 回のオムニバス形式の講義に加え、術前治療計画、外科、補綴のインプラント実習を行う。 授業内容 モデルコアカリキュラム該当項目 1 回目: インプラントの種類, 特徴, 目的, 意義, オッセオインテグレーション E-3-4)-(3)① 2 回目: インプラントの基本構造, 成功率, 生存率 E-3-4)-(3)① 3, 4 回目: インプラントのための解剖学, 軟組織 E-3-4)-(3)① 5, 6 回目: インプラントに必要な診断と治療学 E-3-4)-(3)②, ③, ④ 7 回目: インプラントの治療計画 E-3-4)-(3)④ 8 回目: インプラント治療の実際; 外科手術 E-3-4)-(3)②, ⑤ 9 回目: インプラント治療の実際; 前処置 E-3-4)-(3)②, ③, ④ 10 回目: インプラント治療の実際; 硬軟組織のマネジメント E-3-4)-(3)②, ⑤ 11, 12 回目: インプラント治療の実際; 補綴術式 E-3-4)-(3)②, ⑥, ⑦ 13 回目: インプラント治療の実際; 無歯顎のインプラント補綴、顎顔面の再建 E-3-4)-(3)④, ⑦, ⑧ 14 回目: インプラント周囲炎、メンテナンス E-3-4)-(3)⑧ 15 回目: インプラント画像検査 E-3-4)-(3)②, ③ 16, 17 回目: シミュレーション実習 E-3-4)-(3)②, ④ 18, 19 回目: インプラント外科模型実習 E-3-4)-(3)⑤ 20 回目: インプラント補綴模型実習 E-3-4)-(3)⑥, ⑦			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教第3版よくわかる口腔インプラント学(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期考査の60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義の2/3, 実習は3回とも出席が試験の受験要件である。		
備考			

<p>実務経験のある教員 による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・澤瀬 隆／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・尾立 哲朗／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・作山 葵／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・右藤 友督／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・張 暁旭／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・小堤 涼平／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・山本 英幸／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・津田英未香／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・柴原 清隆／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／歯科医院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・十河 基文／インプラントシミュレーションソフトウェア会社社長／インプラント治療における画像診断、シミュレーションソフトウェアによる治療計画を教示する。
------------------------------	---

日程表(口腔インプラント学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	月	1	インプラントの種類, 特徴, 目的, 意義, オッセオインテグレーション	澤瀬	講義室6B
2回	4	6	月	2	インプラントの基本構造, 成功率, 生存率	澤瀬	講義室6B
3回	4	6	月	3	インプラントのための解剖学, 軟組織1	尾立	講義室6B
4回	4	6	月	4	インプラントのための解剖学, 軟組織2	尾立	講義室6B
5回	4	6	月	5	インプラントに必要な診断と治療学(画像検査、ガイドサージェリー除く)1	澤瀬	講義室6B
6回	4	6	月	6	インプラントに必要な診断と治療学(画像検査、ガイドサージェリー除く)2	澤瀬	講義室6B
7回	4	6	月	7	インプラントの治療計画	澤瀬	講義室6B
8回	4	6	月	8	インプラント治療の実際; 外科手術	作山	講義室6B
9回	4	13	月	4	インプラント治療の実際; 前処置	柴原	講義室6B
10回	4	13	月	5	インプラント治療の実際; 硬軟組織のマネジメント	柴原	講義室6B
11回	4	13	月	6	インプラント治療の実際; 補綴術式(材料学含む)1	澤瀬	講義室6B
12回	4	14	月	7	インプラント治療の実際; 補綴術式2	澤瀬	講義室6B
13回	4	20	月	4	インプラント治療の実際; 上下無歯顎のインプラント補綴、顎顔面の再建	右藤	講義室6B
14回	4	20	月	5	インプラント周囲炎、メンテナンス	尾立	講義室6B
15回	4	20	月	6	インプラント画像検査	十河	講義室6B 臨床実習室4B
16回	4	20	月	7	シミュレーション実習	十河 尾立	臨床実習室4B
17回	4	20	月	8	シミュレーション実習	十河 尾立	臨床実習室4B
18回	4	27	月	4	インプラント外科模型実習	尾立 柴原他	臨床実習室4B
19回	4	27	月	5	インプラント外科模型実習	尾立 柴原他	臨床実習室4B
20回	4	27	月	6	インプラント補綴模型実習	尾立他	臨床実習室4B
21回	4	27	月	7	インプラント補綴模型実習	尾立他	臨床実習室4B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25054616		
科目ナンバリング・コード	DNGD33381990		
授業科目名/(英語名)	摂食嚥下リハビリテーション学/(Dysphagia Rehabilitation)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	久松徳子/norinori@nagasaki-u.ac.jp/医療教育開発センター・総合歯科臨床教育学/095-819-7757/事前に連絡を		
担当教員(オムニバ ス科目等)	久松徳子		
授業の概要	<p>摂食嚥下機能は、食物を認識し口腔に運び、咀嚼～嚥下にて食道・胃へと食物を送り込む一連の運動であり、経口より栄養を確保するための重要な機能である。また疾患の早期回復には良好な栄養状態の維持が必要であるため、近年では経口摂取の重要性が増している。このため、安全で円滑な経口摂取を行うためには多職種におけるチームアプローチが必要であり、多方面から摂食嚥下機能を理解し、障害の改善に向けた対応について学ぶ。摂食嚥下障害に関する知識や安全で円滑な経口摂取の対応方法の習得を目指す。</p>		
授業到達目標	<p>一般目標 GIO: 摂食嚥下障害について理解し、対応方法を身につける。 個別行動目標 SBOs:</p> <p style="text-align: right;">【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下リハビリテーションを説明する。 E-5-1), A-5-1), E-2-1) 2. 摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明する。 E-2-4)-(11), E-5-1), A-5-1), E-2-1) 3. 言語障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明する。 E-2-4)-(11) 4. 栄養管理や食形態の調整を説明する。 E-5-1) 5. 在宅医療（訪問歯科診療を含む）を説明する。 E-5-1), A-5-1) 		
対応するディプロマポリシー	<p>DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP9: 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。 DP10: 離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。</p>		
授業方法(学習指導法)	講義形式で行う。		
授業内容	<p>1 回～23 回予定。 摂食嚥下障害における、リハビリテーション医学、解剖、生理、原因、診査・診断、対応方法、口腔ケア、栄養、リスク管理、人生会議、緩和ケア、症例検討等々を、内容に合わせた時間配分にて、上記回数内で実施する。 講義内容により講義時間を調整するため、授業内容等をシラバスには記していないが、詳細は授業時間ごとに提示する。 日程表に授業内容を簡単に記載しているが、実施目安の参考として記載している。</p>		
キーワード	摂食嚥下障害, リハビリテーション, 経口摂取, 口腔ケア, 最期までくちから食べる		
教科書・教材・参考書	<p>参考書 摂食嚥下リハビリテーション第3版 (医歯薬出版) 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学(医歯薬出版) 摂食・嚥下のメカニズム第2版 (医歯薬出版) 等</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>定期試験または課題レポートでの評価を行う。 出席、追試験、再試験等は学部規定に従う。</p>		
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。		
備考(学生へのメッセージ)	<p>基礎的知識や医科的内容も含み、口腔のみならず、人生の最期までを見据えた内容である。自身や身近な人のこれからの人生や社会構造・社会情勢等も念頭に置きながら受講すると、身近なこととして受け止めやすく、理解が深まる内容であると思われる。</p>		
実務経験のある教員による授業科目	<p>・久松 徳子/大学病院における診療経験(摂食嚥下リハビリテーション治療・補綴治療) / 大学病院における診療経験をもちに摂食嚥下リハビリテーション治療に関する講義を行う。</p>		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	23	木	4	摂食嚥下障害 リハビリテーション、解剖、生理	久松	講義室6B
2回	4	23	木	5	摂食嚥下障害 リハビリテーション、解剖、生理	久松	講義室6B
3回	4	30	木	4	摂食嚥下障害 リハビリテーション、解剖、生理	久松	講義室6B
4回	4	30	木	5	摂食嚥下障害 小児	久松	講義室6B
5回	5	1	金	4	摂食嚥下障害 小児	久松	講義室6B
6回	5	1	金	5	摂食嚥下障害 原因疾患	久松	講義室6B
7回	5	1	金	6	摂食嚥下障害 原因疾患	久松	講義室6B
8回	5	14	木	4	摂食嚥下障害 診査・診断	久松	講義室6B
9回	5	14	木	5	摂食嚥下障害 診査・診断	久松	講義室6B
10回	5	14	木	6	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
11回	5	21	木	4	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
12回	5	21	木	5	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
13回	5	21	木	6	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
14回	5	28	木	6	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
15回	6	3	水	1	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	6	3	水	2	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
17回	6	4	木	4	摂食嚥下障害 対応方法	久松	講義室6B
18回	6	4	木	5	摂食嚥下障害 リスク管理	久松	講義室6B
19回	6	11	木	6	摂食嚥下障害 リスク管理	久松	講義室6B
20回	6	18	木	4	摂食嚥下障害 訪問	久松	講義室6B
21回	6	18	木	5	摂食嚥下障害 緩和ケア	久松	講義室6B
22回	6	18	木	6	摂食嚥下障害 人生会議	久松	講義室6B
23回	7	16	木	5	摂食嚥下障害 症例検討	久松	講義室6B

年度 2026学期 1Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25054623		
科目ナンバリング・コード	DNGD33441990		
授業科目名/(英語名)	社会歯科学/(Social dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川下由美子/iriko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学教員室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	入江浩一郎、川下由美子		
授業の概要 社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について学習する。			
授業到達目標		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
一般目標 GIO:		B-2	
社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について学び理解する。		B-2-2 B-3-2	
個別行動目標 SBOs:			
1.保健・医療施策を説明できる。			
2.医療保険制度と国民医療費を説明できる。			
3.社会保障制度(社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生)を説明できる。			
対応するディプロマポリシー DP2: 歯科口腔科学に関する臨床的知識を身につけている			
授業方法(学習指導法) 講義形式			
授業内容 1 回目: 社会保障 (入江) 2 回目: 社会保障と医療経済 (入江) 3 回目: 医事衛生法規(入江) 4 回目: 衛生行政とその他の衛生法規 (入江) 5 回目: 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム① (川下) 6 回目: 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム② (川下) 7 回目: 医療の質と安全の確保 (川下) 8 回目: 薬事衛生法規および臨床研究 (川下)			
キーワード	社会保障、医療経済、歯科関連の法律と制度		
教科書・教材・参考書	教科書:スタンダード社会歯科学 第8版 (学建書院) 参考書:国民衛生の動向、公衆衛生が見える 参考資料:厚生労働省のホームページ		
成績評価の方法・基準等	共用試験 CBT に合格することをもって修了認定とする。 評価は CBT の得点に出席やレポート点を加味して行う		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・入江浩一郎/現役歯科医師が大学病院における実務経験/社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について指導する。 ・川下由美子/現役歯科医師が大学病院における実務経験/社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について指導する。 		

日程表(社会歯科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	4	社会保障制度	入江	講義室6B
2回	4	1	水	5	社会保障と医療経済	入江	講義室6B
3回	4	8	水	4	医事衛生法規	入江	講義室6B
4回	4	8	水	5	衛生行政とその他の衛生法規	入江	講義室6B
5回	4	14	火	6	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム1	川下	講義室6B
6回	4	15	水	5	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム2	川下	講義室6B
7回	4	21	火	6	医療の質と安全の確保	川下	講義室6B
8回	4	28	火	6	薬事衛生法規および臨床研究	川下	講義室6B

統合科目（4年次生、5年次生）

(1) 臨床解剖学	(4年)	234
(2) スポーツ歯学	(4年)	237
(3) 総合歯科学Ⅰ	(4年)	239
(4) 総合歯科学Ⅱ	(5年)	241
(5) 臨床歯科器材・薬剤学	(5年)	243
(6) 臨床薬理学	(5年)	246
(7) デジタルデンティストリー	(5年)	248
(8) 齶蝕・歯周病学	(5年)	250
(9) 接着歯学	(5年)	253
(10) 顎口腔機能・解析学	(5年)	256
(11) 成育歯学	(5年)	259
(12) 口腔腫瘍学	(5年)	262
(13) 唾液腺疾患と障害	(5年)	265
(14) 周術期口腔機能管理学	(5年)	268
(15) 生活習慣病と口腔	(5年)	271
(16) 睡眠障害と疾患	(5年)	273
(17) 離島歯科医学	(5年)	276
(18) 医療面接	(5年)	279
(19) 医療倫理・プロフェッショナリズム論	(5年)	282
(19) 急性期医療	(5年)	285
(21) 在宅介護医療	(5年)	287
(22) 統合医療学	(5年)	289

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054634		
科目ナンバリング・コード	DNGD33811992		
授業科目名/(英語名)	総合歯科学Ⅱ/(Integrative dentistry2)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00~17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝, 山田朋弘, 讃岐拓郎, 吉村篤利, 村田比呂司, 森内絵美, 片山郁夫, 入江浩一郎		
授業の概要 基礎, 臨床講義が一通り終了した時点で, 1) これまでの復習とまとめを歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準と関連づけて整理する. 2) 臨床実習に向けての知識の整理を行う			
授業到達目標	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】		
一般目標 GIO:	A~E 領域全ての範囲		
臨床実習に必要な知識を整理する.			
個別行動目標 SBOs:	歯学教育モデル・コア・カリキュラムを理解する 歯科医師国家試験出題基準を理解する CBT の仕組みについて理解する		
対応するディプロマポリシー			
DP1	歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。		
DP2	歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。		
授業方法(学習指導法) 講義, グループ学習			
授業内容 1 回目: 概要説明, 歯学教育コアカリキュラム, 国家試験出題基準について 2 回目: 総合問題演習 1 3 回目: 総合問題演習 2 4 回目: 総合問題演習 3 5 回目: 総合問題演習 4 6 回目: 総合問題演習 5 7 回目: 総合問題演習 6 8 回目: 総合問題演習 7			
キーワード	歯学教育モデル・コア・カリキュラム, 共用試験, 歯科医師国家試験出題基準		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	共用試験 CBT に合格することをもって修了認定とする. 評価は CBT の得点に出席やレポート点を加味して行う		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	詳細は, 授業開始時に説明の予定		
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> 角 忠輝/長崎大学病院における歯科臨床/大学病院における診療行為(総合歯科)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 山田朋弘/大学病院における診療行為(顎顔面口腔外科)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 讃岐拓郎/大学病院における診療行為(歯科麻酔)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 吉村篤利/大学病院における診療行為(歯周治療)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 村田比呂司/大学病院における診療行為(歯科補綴)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 森内絵美/大学病院における診療行為(歯科矯正)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 片山郁夫/大学病院における診療行為(歯科放射線)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 入江浩一郎/大学病院における診療行為(口腔保健)を元に臨床実習に必要な知識について講義形式の授業を行っている 		

日程表(総合歯科学Ⅱ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	火	1	概要説明, 歯学教育コアカリキュラム, 国家試験出題基準について	角 忠輝	講義室6B
2回	5	25	月	1	総合問題演習1	山田朋弘	講義室6B
3回	5	25	月	2	総合問題演習2	讃岐拓郎	講義室6B
4回	5	28	木	4	総合問題演習3	吉村篤利	講義室6B
5回	5	28	木	5	総合問題演習4	村田比呂司	講義室6B
6回	5	29	金	4	総合問題演習5	森内絵美	講義室6B
7回	5	29	金	5	総合問題演習6	片山郁夫	講義室6B
8回	6	2	火	2	総合問題演習7	入江浩一郎	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054602		
科目ナンバリング・コード	DNGD33251985		
授業科目名/(英語名)	臨床歯科器材・薬剤学/(Clinical Dental Apparatus & Pharmacy)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー	渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00~17:00		
担当教員(オムニバス科目等)	入江浩一郎、右藤友督、江越貴文、大森景介、尾崎幸生、尾立哲郎、川下由美子、黒木唯文、平 曜輔、原 昌士、村田比呂司、柳口嘉治郎、渡邊郁哉、バラネザハド有礼左		
授業の概要	<p>歯科臨床において歯科器材と薬剤の占める比重は大きく、市場には新製品や改良品が輩出している。多種多様な製品の中から個々の症例に有用なものを選択するためには、正確な知識の蓄積と冷静な判断力が必要となる。</p>		
授業到達目標	<p>一般目標 GIO: 歯科治療に必要な歯科器材と薬剤について、その選択法や最適な使用方法を理解し、臨床実習直前において最新の知識と今後の変化・発展に対して柔軟に対応できる判断力を身に付ける。</p> <p>個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防を説明できる A-6-1)-⑥、A-6-3)-③ 2. 歯内療法材料を説明できる D-2-⑥ 3. 修復・補綴用材料を説明できる D-2-①② 4. 歯周治療用材料を説明できる D-1-①③、E-3-3)-(3)-② 5. 歯科用レーザーを説明できる D-1-①③ 6. 在宅歯科診療用ポータブルユニット、器材を説明できる D-1-①③ 7. 医薬品医療機器等関連法制を説明できる B-2-1)-④ 		
対応するディプロマポリシー	<p>DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。</p> <p>DP4: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。</p>		
授業方法(学習指導法)	パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い、必要に応じてプリントを配布する。		
授業内容	<p>1 回目 修復・補綴用 (1)印象材の特徴, 印象採得法</p> <p>2 回目 修復・補綴用 (2)合着用セメント, 仮着材</p> <p>3 回目 修復・補綴用 (3)硬質レジン, 床用レジン</p> <p>4 回目 修復・補綴用 (4)インプラント治療のための各種器材・材料(手術用器具, 印象パーツ, 使用される金属など含む)</p> <p>5 回目 修復・補綴用 (5)エアータービン, 研磨材</p> <p>6 回目 修復・補綴用 (6)咬合・適合診査材, リライン材</p> <p>7 回目 修復・補綴用 (7)義歯安定剤, 義歯洗浄剤</p> <p>8 回目 歯周治療用 (1)局所的治療薬, 全身的治疗薬</p> <p>9 回目 歯周治療用 (2)プラークコントロール・オーラルケアの指導法, 使用器具について</p> <p>10 回目 歯周治療用 (3)外科処置用器材, 処理後のパック</p> <p>11 回目 歯内療法用 覆髄剤, 根管消毒薬, 根管長測定器</p> <p>12 回目 歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー</p> <p>13 回目 医薬品医療機器等関連法制</p> <p>14 回目 在宅歯科診療用ポータブルユニット, 器材</p> <p>15 回目 感染予防用 (1)術者の感染予防, 手術野の消毒</p> <p>16 回目 感染予防用 (2)診療室での感染対策</p>		
キーワード	歯科器材 歯科薬剤 臨床術式		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。		

備考(学生へのメッセージ)	<p>今まで、まとまった形では聞くことのできなかつた話を、オムニバス形式で専門家によって分りやすく講義するので、先ずは出席することを心がけて欲しい。数年前に聞いて忘れかけているかもしれない細菌学、薬理学、歯科理工学などの知識も頭の中で再構築され、目前に迫った臨床実習に必ず役に立つはずである。なお講義の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。</p>
---------------	--

<p>実務経験のある教員による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入江 浩一郎／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・右藤 友督／大学病院および関連病院におけるインプラント補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・江越 貴文／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・大森 景介／大学病院および関連病院における口腔外科を主体とした治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・尾崎 幸生／大学病院および関連病院における歯内歯周治療を主体とした歯科治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・尾立 哲郎／大学病院および関連病院における歯冠補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 <p>川下由美子／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒木 唯文／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・平 曜輔／大学病院および関連病院における歯冠補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・原 昌士／大学病院および関連病院における口腔外科を主体とした治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・村田 比呂司／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・柳口 嘉治郎／大学病院および関連病院における保存修復を主体とした歯科治療／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・渡邊 郁哉／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供
-------------------------	---

日程表（臨床歯科器材・薬剤学）

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	25	月	3	修復・補綴用（1） 印象材の特徴，印象採得法：鑄造修復物を製作するためには各種印象材の特性を理解した上での精度の良い印象採得法が必須である。印象方法により注意すべき点が異なるので熟知すること。	江越貴文	講義室6B
2回	6	1	月	1	修復・補綴用（2） 硬質レジン，床用レジン：硬質レジンの種類は多く，それぞれの特色を知って使うことが大切である。床用レジンにも常温重合型など多種類があり，目的に応じて使い分ける。	尾立哲郎	講義室6B
3回	6	1	月	2	修復・補綴用（3） 合着用セメント，仮着材：歯髄保護のためには辺縁封鎖性の優れた接着性レジンが望ましいが，操作性は従来型セメントとはやや異なる。仮着材はカルボン酸系のものが扱い易い。	平 曜輔	講義室6B
4回	6	1	月	3	修復・補綴用（4） インプラント治療では多くの器材や材料を使用する。インプラント体自体も材料となるため，インプラントに利用される金属の特徴，埋入のための器材，印象のために利用する部品（材料）と実際の印象法について解説する。	右藤友督	講義室6B
5回	6	8	月	1	修復・補綴用（5） エアタービン，研磨材：歯科臨床においては，窩洞形成や支台歯形成，修復物の作製工程などで切削や研磨の機会が多い。エアタービンの構造，切削・研磨の理論，各種の切削材や研磨材の特徴について話す。	バラネザハド 有礼左	講義室6B
6回	6	8	月	2	修復・補綴用（6） 咬合・適合診査材，リライン材：補綴物装着時の咬合や適合チェックの診査材は正しい選択が必要である。リライン材，ティッシュコンディショナーは各材料の特徴を把握することが重要である。	村田 比呂司	講義室6B
7回	6	8	月	3	修復・補綴用（7） 義歯安定剤，義歯洗浄剤：義歯安定剤，義歯洗浄剤についての患者への適切な指導が重要である。	村田 比呂司	講義室6B
8回	6	15	月	1	歯周治療用（1） 局所的治療薬，全身的治療薬：局所的治療薬はポケット内細菌叢の変化を目的とするのか，あるいは消炎を目的とするのか，その目的に応じた薬剤を選択する。	尾崎幸生	講義室6B
9回	6	15	月	2	歯周治療用（2） ブラークコントロール・オーラルケアの指導法，使用器具について	川下 由美子	講義室6B
10回	6	15	月	3	歯周治療用（3） 外科処置用器材，処理後のパック：外科用器材には正確に目的を達成できるものを選ぶ。使い易く消毒に耐えることも必要である。パックは成分や貼付方法，除去時期を知って使う。	尾崎幸生	講義室6B
11回	6	22	月	2	歯内療法用 覆髄剤，根管消毒薬，根管長測定器：根管充填剤は術前，術中の臨床症状，根管の形態・状態に応じて適切に選択/適応する必要がある。アレルギーや薬剤過敏症の患者も増加傾向にあるので注意。	柳口 嘉治郎	講義室6B
12回	6	22	月	3	歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー： 歯科用レーザーの用途は多種類あり，主に歯周治療や歯内治療，保存修復，外科治療，補綴技工に使用されるレーザーの種類やレーザー機器の原理，使用法を理解することは重要である。	渡邊郁哉	講義室6B
13回	7	8	水	4	医薬品医療機器等関連法制： 口腔保健と歯科医療における「医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律」，「麻薬及び向精神薬取締法」などを概説する。	入江 浩一郎	講義室6B
14回	7	8	水	5	在宅歯科診療用ポータブルユニット，器材： 要介護高齢者に潜在する歯科治療ニーズは高く，臨床現場では軽量でコンパクトなパッケージの開発が求められる。最新の往診用機器・器材を解説する。	黒木唯文	講義室6B
15回	7	15	水	5	感染予防用（1） 術者の感染予防，手術野の消毒：術者の予防として感染源と感染経路に配慮する。手術野の消毒には組織刺激性，殺菌力，効果の持続性を目安に薬剤を選ぶ。	大森景介	講義室6B
16回	7	15	水	6	感染予防用（2） 診療室での感染対策：滅菌器と消毒薬，防護用具が感染対策として使用される。それらの対象物，対象菌，特性，用法，安全性などを概説する。	原 昌士	講義室6B

年度 2026 学期 1Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054610		
科目ナンバリング・コード	DNGD33331982		
授業科目名/(英語名)	臨床薬理学/(Clinical Pharmacology)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 PBL室・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 坂井詠子/eiko-s@nagasaki-u.ac.jp/C棟8階 先進口腔医療開発学/095-819-7621/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	PBL:坂井詠子, 藤山理恵, 他 講義:坂井詠子, 倉田眞治		
授業の概要 PBL形式により、臨床で用いる薬剤(特に受容体を介した作用を有するもの)に関する題材の中で、問題点を見出し、生理学・薬理学的な思考から、その解決策を見つける方法を身につける。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 臨床で用いる薬剤を題材にとりあげ、副作用や他の薬剤との併用によって起こり得る問題を、他者との良好なコミュニケーションをとりながら、学生が自ら解決策を見つけ出す能力を身につける。 個別行動目標 SBOs: 1.課題シナリオから重要な項目を抽出できる。 A-2-1) 2.理論的に分析し、仮説の設定・検証ができる。 A-2-1) 3.学習項目に応じた情報収集ができる。 A-2-2) 4.調べてきた内容をわかりやすく発表できる。 A-2-2) 5.他者の考えを尊重し理解できる。 A-2-1) 6.薬物の作用機序・相互作用を説明できる。 C-6-2), C-6-3) 7.薬物の副作用と有害作用を説明できる。 C-6-4), E-1-4) 8.医科疾患合併患者および妊産婦の歯科医療時の注意点を説明できる。 E-6) 9.救急処置を説明できる。 E-1-6)			
【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。 DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。 DP8: 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 約8名のグループに分かれPBL方式をとる。シナリオを読み、それに対して討論を行いながら問題点を指摘し、仮説を設定する。その仮説に対して検証を行う。最後に救急処置についての講義がある。			
授業内容 1, 2回目(4/10金) グループセッション: グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。仮説を検証するための学習項目を設定する。(担当者 坂井詠子、藤山理恵、他) 3, 4回目(4/10金) 講義: 受容体関連領域の解説(担当者 坂井詠子) 5, 6, 7回目(4/10金) 自主学习: 各自学習項目について調べる。 8, 9回目(4/17金) グループディスカッション: 調べてきた学習項目について発表し仮説を検証する。ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。(担当者 坂井詠子、藤山理恵、他) 10回目(4/17金) 講義: 救急時の対処法及び薬物の使用法(担当者 倉田眞治) 11回目(4/17金) まとめ及び自己・他者評価。(担当者 坂井詠子)			
キーワード	薬物, バイタルサイン, 救急治療薬, PBL		
教科書・教材・参考書	現代歯科薬理学, 薬がみえる, および講義プリント等		
成績評価の方法・基準等	ファシリテーターによる学生の評価(50%)と定期テスト(50%)により判定する。定期テストは国家試験形式で薬理学全般から出題し、合計100点のうち60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	進行方法等しっかりと頭に入れて臨み、積極的に発言してください。		
実務経験のある教員による授業科目	倉田眞治/大学病院における実務経験/麻酔科の歯科医師としての経験に基づき、救急の現場でどのような処置を行うかを講義する。藤山理恵/大学病院での味覚外来における診療経験/味覚外来での臨床経験を生かした実践的な情報提供を行う。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	10	金	1	グループセッション： グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	坂井 藤山 他	PBL室
2回	4	10	金	2	グループセッション： グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	坂井 藤山 他	PBL室
3回	4	10	金	3	受容体関連領域の解説	坂井	講義室6B
4回	4	10	金	4	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	藤山 坂井	PBL室
5回	4	10	金	5	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井 藤山 他	PBL室
6回	4	10	金	6	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井 藤山 他	PBL室
7回	4	10	金	7	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井 藤山 他	PBL室
8回	4	17	金	4	グループディスカッション： 調べてきた学習項目について発表を行い、前回立てた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。	坂井 藤山 他	PBL室
9回	4	17	金	5	グループディスカッション： 調べてきた学習項目について発表を行い、前回立てた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。	坂井 藤山 他	PBL室
10回	4	17	金	6	緊急時の対処法： 緊急時に必要な処置、および薬物に関する知識を講義する。	倉田	講義室6B
11回	4	17	金	7	まとめおよび評価： まとめおよび自己・他者の評価	坂井	講義室6B

年度 2026 学期 1Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054625 DNGD33541985 デジタルデンティストリー/(Digital Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	5年次	科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	右藤友督/y-uto@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学分野医局/095-819-7687(内 7687)/金曜 13:00~20:00		
担当教員(オムニバス科目等)	右藤友督、角 美佐、尾立哲郎、竹中広登、金澤 学(非常勤講師)		
授業の概要	デジタルデンティストリーは既に一般臨床で広く普及し、診療の精度と効率を高める基盤技術となっている。さらに AI の導入により、診断支援や設計プロセスの自動化など新たな発展が加速している。本講義では、デジタルデンティストリーの基礎から最新応用までオムニバス形式で解説する。		
授業到達目標	<p>一般目標 GIO :</p> <p>デジタルデンティストリーの基礎と臨床応用について理解する。</p> <p>個別行動目標 SBOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルデンティストリーの概要を説明できる。 2. 画像診断における AI の応用を説明できる。 3. 補綴修復治療のデジタルデンティストリーを説明できる。 4. インプラント治療のデジタルデンティストリーを説明できる。 5. 有床義歯補綴治療のデジタルデンティストリーを説明できる。 6. 歯科技工におけるデジタルデンティストリーを説明できる。 		
	<p>【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p> <p>D-1①③</p> <p>E-1-2)</p> <p>E-3-4)-(1)②</p> <p>E-3-4)-(3)③④</p> <p>E-3-4)-(2)①⑫</p> <p>E-3-4)-(1)②,-(2)⑫,-(3)⑦</p>		
対応するディプロマポリシー	<p>DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。</p> <p>DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。</p>		
授業方法(学習指導法)	パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い、必要に応じてプリントを配布する。		
授業内容	<p>1回目 デジタルデンティストリーの概要・補綴修復治療のデジタルデンティストリー</p> <p>2回目 画像診断における AI 応用</p> <p>3回目 デジタル歯科技工</p> <p>4回目 (特別講義)有床義歯補綴のデジタル化</p> <p>5回目 インプラント治療のデジタルデンティストリー</p>		
キーワード	デジタルデンティストリー		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験またはレポートにより行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	様々な用途に利用されているデジタル技術について、オムニバス形式で各分野の専門家が分りやすく講義する。講義の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。		
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・角 美佐/長崎大学病院での画像診断実務経験に基づき、画像診断における AI の応用について解説する。 ・尾立哲郎/長崎大学病院でのインプラント治療実務経験に基づき、インプラント治療におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 ・金澤 学/東京科学大学病院での有床義歯補綴実務経験に基づき、有床義歯補綴治療におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 ・竹中広登/長崎大学病院におけるデジタル技工実務経験に基づき、技工物製作におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 ・右藤友督/長崎大学病院での補綴修復治療実務経験に基づき、補綴修復治療におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	11	月	1	デジタルデンティストリーの概要 補綴修復治療のデジタルデンティストリー	右藤友督	講義室6B
2回	5	11	月	2	画像診断におけるAI応用	角 美佐	講義室6B
3回	5	11	月	3	デジタル歯科技工	竹中広登	講義室6B
4回	5	18	月	2	(特別講義)有床義歯補綴のデジタル化	金澤 学	講義室6B
5回	5	18	月	3	インプラント治療のデジタルデンティストリー	尾立哲郎	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054603		
科目ナンバリング・コード	DNGD33261989		
授業科目名/(英語名)	齶蝕・歯周病学/(cariology, periodontology)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・演習形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 柳口嘉治郎/yanagi@nagasaki-u.ac.jp /歯周歯内治療学分野准教授・講師室/095-819-7682(内 7682)/			
担当教員(オムニバ ス科目等)	吉村篤利、藤田優子、坂本英次郎、柳口嘉治郎 他数名		
授業の概要			
<p>歯及び歯周組織の健康を生涯にわたって維持・増進することによって患者様のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献できる歯科医師になるために、4年次までに学んだ個々の知識を基盤にして、これらを齶蝕・歯周病学として再構築し、個々の症例に対し細かく分析していくことで問題発見・解決能力を深めることを目標としている。</p>			
授業到達目標			
一般目標 GIO:			
歯髄・根尖性歯周炎及び歯周疾患の病因と病態を理解し、診断と治療方針をたてる能力を身に付ける。			
個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
1. 歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。		E-3-2),F-2-2)	
2. 歯内療法用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる		E-3-3)-(2)	
3. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。		D-2	
4. 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。		E-3-2),F-2-2)	
5. 口腔細菌、歯垢及び歯石について説明できる。		E-3-3)-(3)	
対応するディプロマポリシー			
DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。			
DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。			
DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。			
授業方法(学習指導法)			
(1)講義形式(1 回目)			
(2)グループ討議(2~15 回目)小グループごとに症例が提示される。学生は症例分析・治療計画の立案を行い、グループ間で討議後、全体発表を行う。			
授業内容			
1 回目: 小児の齶蝕(講義)			
2 回目: 歯周治療学1(グループ討議)			
3 回目: 歯周治療学2(グループ討議)			
4 回目: 歯周治療学3(グループ討議)			
5 回目: 歯周治療学4(グループ討議)			
6 回目: 歯周治療学5(グループ討議)			
7 回目: 歯周治療学6(グループ討議)			
8 回目: 歯周治療学7(グループ討議)			
9 回目: 齶蝕学1(グループ討議)			
10 回目: 齶蝕学2(グループ討議)			
11 回目: 齶蝕学3(グループ討議)			
12 回目: 齶蝕学4(グループ討議)			
13 回目: 齶蝕学5(グループ討議)			
14 回目: 齶蝕学6(グループ討議)			
15 回目: 齶蝕学7(グループ討議)			
16 回目: 総括			
キーワード	歯内治療学、歯周治療学		
教科書・教材・参考書	保存修復学、歯内治療学、歯周治療学、小児歯科学の教科書・参考書を用いる。		

成績評価の方法・基準等	観察記録とレポートの総合点で判定される。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	(1)4年次までに学習した知識を基盤とする基礎－臨床縦断型の科目である。従って、疑問や不明な点を感じた場合は、該当科目の復習が必要となる。 (2)問題発見・解決能力を深めることがねらいなので、学生には主体的、積極的姿勢で取り組むことが求められる。 都合により講義の内容及び順番等が変更になる場合は事前に連絡する。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・吉村 篤利／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・岩下 未咲／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・坂本英次郎／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・尾崎 幸生／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・松裏 貴史／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・柳口嘉治郎／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・藤田 優子／小児歯科治療室での勤務経験／小児歯科治療室で主に担当する齲蝕の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。

日程表(齶蝕・歯周病学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	1	月	7	小児における齶蝕細菌の感染と齶蝕発生 キーワード: 母子感染、ミュータンスレンサ球菌、プラークバイオフィルム	藤田	講義室6B
2回	6	2	火	7	歯周治療学概論及び実習ガイダンス キーワード: 歯周病、歯周治療、治療計画	坂本	講義室6B
3回	6	8	月	4	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案 キーワード: 歯周検査、咬合診査、エックス線検査、歯周外科、メンテナンス	坂本	講義室6B
4回	6	8	月	5	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	坂本	講義室6B
5回	6	8	月	6	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	坂本	講義室6B
6回	6	19	月	7	治療計画の発表と討論	坂本	講義室6B
7回	6	19	月	8	治療計画の発表と討論、レポート作成	坂本	講義室6B
8回	6	23	火	4	メンテナンス治療 キーワード: 歯周検査、咬合診査、エックス線検査	坂本	講義室6B
9回	6	23	火	5	齶蝕学概論及び実習ガイダンス キーワード: 保存修復学、歯内治療学、治療計画	柳口	講義室6B
10回	6	23	火	6	症例分析と治療計画の立案	柳口	講義室6B
11回	6	23	火	7	症例分析と治療計画の立案	柳口	講義室6B
12回	6	30	火	4	症例分析と治療計画の立案	柳口	講義室6B
13回	6	30	火	5	治療計画の発表と討論	柳口	講義室6B
14回	6	30	火	6	治療計画の発表と討論	柳口	講義室6B
15回	6	30	火	7	レポート作成	柳口	講義室6B
16回	6	30	火	8	齶蝕・歯周病学について総括する	未定	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)								
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054604 DNGD33271986 接着歯学/(Adhesive Dentistry)										
対象年次 5年次	講義形態 講義・演習形式	教室 講義室 6B・臨床実習室 4B									
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目										
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 平 曜輔/yohsuke@nagasaki-u.ac.jp/歯学部本館 C棟オープンラボ 2/095-819-7677(内 7677)/17:00~18:00											
担当教員(オムニバ ス科目等)	右藤友督, 江越貴文, 尾立哲郎, 近藤好夫, 添野光洋, 平 曜輔, 吉田圭一 (50音順)										
授業の概要											
<p>種々の歯冠修復材料と歯質間の接着や被着材間の接着, 口腔バイオフィルムの形成など, 歯科領域における接着現象に焦点を当てる。接着の基本的メカニズムを学習した後, 小児歯科学, 保存学, 補綴学の各領域における接着の具体的事例や各種のテクニックを学ぶとともに, 実習によって, 接着ブリッジに関する基本的な知識と技能を修得する。</p>											
授業到達目標											
<p>一般目標 GIO: 包括的な歯科医療を実施できる歯科医師になるため, 接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能, 細胞の歯科材料における接着を修得する。</p> <p>個別行動目標 SBOs:</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の物理的, 化学的, 生物学的性質とその評価法を説明する。(知識・想起)</td> <td>【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 D-1, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操作方法を説明する。(知識・想起)</td> <td>D-2, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的, 種類, 適応症, 手順及び留意点説明する。(知識・想起)</td> <td>E-3-1), E-4-2), F-3-4)</td> </tr> <tr> <td>4. 接着治療の各基本的操作を実施できる。(技能)</td> <td>F-3-4)</td> </tr> </table>				1. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の物理的, 化学的, 生物学的性質とその評価法を説明する。(知識・想起)	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 D-1, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)	2. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操作方法を説明する。(知識・想起)	D-2, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)	3. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的, 種類, 適応症, 手順及び留意点説明する。(知識・想起)	E-3-1), E-4-2), F-3-4)	4. 接着治療の各基本的操作を実施できる。(技能)	F-3-4)
1. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の物理的, 化学的, 生物学的性質とその評価法を説明する。(知識・想起)	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 D-1, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)										
2. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操作方法を説明する。(知識・想起)	D-2, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)										
3. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的, 種類, 適応症, 手順及び留意点説明する。(知識・想起)	E-3-1), E-4-2), F-3-4)										
4. 接着治療の各基本的操作を実施できる。(技能)	F-3-4)										
対応するディプロマポリシー											
<p>DP2: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。</p> <p>DP3: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。</p>											
授業方法(学習指導法)											
<p>1. 講義はスライド, 液晶プロジェクターなどを用いて行う。</p> <p>2. 実習は接着ブリッジの設計, 形成と接着操作を模型上で行う。</p>											
授業内容											
<p>1 回目: 保存修復領域における接着 2 回目: 歯科材料における接着(1) 3 回目: 歯科材料における接着(2) 4 回目: 包括的歯科診療における接着 5 回目: 小児歯科領域を含めた接着 6 回目: 接着ブリッジ実習関連講義 7 回目: 補綴領域における接着(1) 8 回目: 補綴領域における接着(2) 9 回目: 口腔バイオフィルムにおける接着と定着機構 10 回目: 接着ブリッジ実習(1) 11 回目: 接着ブリッジ実習(2) 12 回目: 接着ブリッジ実習(3)</p>											

キーワード	接着, プライマー, ボンディング剤, 歯質, 歯冠修復材料, 接着ブリッジ, バイオフィルム
教科書・教材・参考書	1. 榎本貢三ほか編集:スタンダード歯科理工学, 学建書院 2. 日本接着歯学会編:接着歯学第2版, 医歯薬出版, 2015年 3. 吉田圭一:補綴臨床別冊 文献と歯科材料学に基づいた補綴装置と歯面の正しい前処理&接着, 医歯薬出版, 2022年 ※教材として授業中にプリントを配付することがある。
成績評価の方法・基準等	筆記試験(80%), 実習(20%)の総合評価とする。 それぞれの評価点の中には授業中の課題に対する積極的な取り組み状況も含まれている。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	接着歯学が基礎系および臨床系の諸科学に立脚した学問分野であることを認識し, 講義と実習を通じて上記の到達目標が達成できるよう, 自覚と積極的な勉学を期待する。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・右藤友督/長崎大学病院での診療/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・江越貴文/長崎大学病院での診療/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・尾立哲郎/長崎大学病院での診療/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・近藤好夫/長崎大学病院での診療/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・添野光洋/長崎大学病院および歯科医院での診療/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・平 曜輔/長崎大学病院での診療/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・吉田圭一/歯科医院での診療および大学病院における実務経験/診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。

日程表(接着歯学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	13	月	1	保存修復領域における接着 歯質に対する接着性材料と接着術式の変遷および接着機構を解説する。	平	講義室6B
2回	4	13	月	2	歯科材料における接着(1) 被着材の表面処理法, プライマー, レジンセメントなどを解説する。	吉田	講義室6B
3回	4	13	月	3	歯科材料における接着(2) 被着材の表面処理法, プライマー, レジンセメントなどを解説する。	吉田	講義室6B
4回	4	20	月	1	包括的歯科診療における接着 開業医での歯科診療における接着の役割について解説する。	添野	講義室6B
5回	4	20	月	2	小児歯科領域を含めた接着 レジンの接着性およびシーラント等について解説する。	添野	講義室6B
6回	4	20	月	3	接着ブリッジ実習関連講義 接着ブリッジによる補綴の歴史, 特徴などを実習に関連づけて解説する。	平	講義室6B
7回	4	21	火	1	補綴領域における接着(1) 補綴領域における接着性材料(金属, セラミックスおよびコンポジットレジンの 接着, 接着性レジンセメントなど)を解説する。	吉田	講義室6B
8回	4	21	火	2	補綴領域における接着(2) 補綴領域における接着を活かした臨床術式を紹介する。	吉田	講義室6B
9回	4	21	火	3	口腔バイオフィルムにおける接着と定着機構 口腔バイオフィルム形成の初期接着から成熟に至る過程を, 分子機構およ び界面現象の観点から解説する。	近藤	講義室6B
10回	4	28	火	1	接着ブリッジ実習(1) 接着操作の実習を行う。	教員5名	臨床実習室4B
11回	4	28	火	2	接着ブリッジ実習(2) 上顎前歯部の接着ブリッジの設計, 形成の実習を行う。	教員5名	臨床実習室4B
12回	4	28	火	3	接着ブリッジ実習(3) 上顎臼歯部の接着ブリッジの設計, 形成の実習を行う。	教員5名	臨床実習室4B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)																								
科目番号	25054605																										
科目ナンバリング・コード	DNGD33281985																										
授業科目名/(英語名)	顎口腔機能・解析学/(Functional Analysis of Stomatognathic System)																										
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6B・臨床実習室 4B																									
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目																										
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鳥巢哲朗/torisu@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教員室/095-819-7693(内 7693)/16:00~17:00																											
担当教員(オムニバ ス科目等)	原田佳枝、鳥巢哲朗、吉田和弘、岡崎ひとみ、森智康、他4名																										
<p>授業の概要および位置づけ</p> <p>顎口腔機能を生命・生体现象として捉え基礎科目と臨床科目との関連を考慮しつつ総合的に学習を進める。顎口腔系の正常機能を理解し、その構成要素である咬合の診査・診断・治療に関する知識を習得することを目指す。はじめに顎口腔系の構造および機能に関する講義を行い、基礎・臨床科目で学習した知識を再確認する。次に相互実習で下顎運動や咬合の診査と咬合器上での再現を体験しグループ討論を行う。最後に咬合と顎機能障害の関連性について解説する。</p>																											
<p>授業到達目標</p> <p>一般目標 GIO: 顎口腔領域の構造および機能を理解し、顎口腔機能の診査・診断・治療する能力を習得することを目指す。</p> <p>個別行動目標 SBOs :</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 顎関節の構造と機能を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-2-1)</td> </tr> <tr> <td>2. 下顎の随意運動と反射を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-2-1)</td> </tr> <tr> <td>3. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-2-1)</td> </tr> <tr> <td>4. 歯列と咬合を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-2-2)</td> </tr> <tr> <td>5. 咬合異常による障害と咀嚼障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-1-1), E-2-4)-(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-3-4)-(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。(知識; 想起)</td> <td>E-3-4)-(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 平均値・調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明でき、基本操作を実施できる。(知識; 技能)</td> <td>D-1, E-1-1), E-3-4)-(2),</td> </tr> <tr> <td>9. 口腔内状態および顎口腔機能に関する患者情報を収集、分析でき、必要な診察、検査を説明できる。(知識; 技能)</td> <td>F-1-1), F-2-2), F-3-4), G-1-1),</td> </tr> <tr> <td>10. 口腔機能・口腔内状態の診察及び検査結果を正確に診療録に記載できる。(知識; 技能)</td> <td>F-2-2)</td> </tr> <tr> <td>11. 咬合採得と平均値咬合器装着の各基本的操作を実施できる。(知識; 技能)</td> <td>F-3-4)</td> </tr> <tr> <td>12. 口腔機能、咀嚼機能検査の必要性を患者に説明し、基本的な操作を実施できる。(知識; 技能)</td> <td>F-2-2), F-3-4)</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p>				1. 顎関節の構造と機能を説明できる。(知識; 想起)	E-2-1)	2. 下顎の随意運動と反射を説明できる。(知識; 想起)	E-2-1)	3. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。(知識; 想起)	E-2-1)	4. 歯列と咬合を説明できる。(知識; 想起)	E-2-2)	5. 咬合異常による障害と咀嚼障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。(知識; 想起)	E-1-1), E-2-4)-(11)	6. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。(知識; 想起)	E-3-4)-(1)	7. 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。(知識; 想起)	E-3-4)-(2)	8. 平均値・調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明でき、基本操作を実施できる。(知識; 技能)	D-1, E-1-1), E-3-4)-(2),	9. 口腔内状態および顎口腔機能に関する患者情報を収集、分析でき、必要な診察、検査を説明できる。(知識; 技能)	F-1-1), F-2-2), F-3-4), G-1-1),	10. 口腔機能・口腔内状態の診察及び検査結果を正確に診療録に記載できる。(知識; 技能)	F-2-2)	11. 咬合採得と平均値咬合器装着の各基本的操作を実施できる。(知識; 技能)	F-3-4)	12. 口腔機能、咀嚼機能検査の必要性を患者に説明し、基本的な操作を実施できる。(知識; 技能)	F-2-2), F-3-4)
1. 顎関節の構造と機能を説明できる。(知識; 想起)	E-2-1)																										
2. 下顎の随意運動と反射を説明できる。(知識; 想起)	E-2-1)																										
3. 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。(知識; 想起)	E-2-1)																										
4. 歯列と咬合を説明できる。(知識; 想起)	E-2-2)																										
5. 咬合異常による障害と咀嚼障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。(知識; 想起)	E-1-1), E-2-4)-(11)																										
6. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。(知識; 想起)	E-3-4)-(1)																										
7. 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。(知識; 想起)	E-3-4)-(2)																										
8. 平均値・調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明でき、基本操作を実施できる。(知識; 技能)	D-1, E-1-1), E-3-4)-(2),																										
9. 口腔内状態および顎口腔機能に関する患者情報を収集、分析でき、必要な診察、検査を説明できる。(知識; 技能)	F-1-1), F-2-2), F-3-4), G-1-1),																										
10. 口腔機能・口腔内状態の診察及び検査結果を正確に診療録に記載できる。(知識; 技能)	F-2-2)																										
11. 咬合採得と平均値咬合器装着の各基本的操作を実施できる。(知識; 技能)	F-3-4)																										
12. 口腔機能、咀嚼機能検査の必要性を患者に説明し、基本的な操作を実施できる。(知識; 技能)	F-2-2), F-3-4)																										
<p>対応するディプロマポリシー</p> <p>DP 1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。</p> <p>DP 2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。</p> <p>DP 3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。</p>																											
<p>授業方法(学習指導法)</p> <p>講義と実習を組み合わせで行う。講義では顎口腔機能と咬合との関連、咬合理論や顎機能障害に関する考え方の変遷等について解説する。実習では、顎機能および咬合の診査、ゴシックアーチ描記、咬合器の調節を体験し、グループ討議を通して知識の定着をはかる。</p>																											
<p>授業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1・2・3回目</td> <td>L1: かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/下顎の基本位と性質/下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/顎運動検査法</td> </tr> <tr> <td>4・5・6回目</td> <td>P1: 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き/印象採得/石膏注入/模型調整</td> </tr> <tr> <td>7・8・9回目</td> <td>P2: フェイスボウトランスファー/(咬合採得)/咬合器付着/チェックバイト記録/顎路計測</td> </tr> <tr> <td>10・11・12・13 回目</td> <td>P3: ゴシックアーチ描記装置の製作/ゴシックアーチとタッピングポイントの記録</td> </tr> <tr> <td>14・15・16 回目</td> <td>P4: 症例提示/グループディスカッション(実習項目に関する検討)/各班プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>17・18 回目</td> <td>P5: グループディスカッション(咬合採得方法)/各班プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>19・20・21 回目</td> <td>L2: 顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論/ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ</td> </tr> </table> <p>(L: 講義 P: 実習)</p>				1・2・3回目	L1: かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/下顎の基本位と性質/下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/顎運動検査法	4・5・6回目	P1: 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き/印象採得/石膏注入/模型調整	7・8・9回目	P2: フェイスボウトランスファー/(咬合採得)/咬合器付着/チェックバイト記録/顎路計測	10・11・12・13 回目	P3: ゴシックアーチ描記装置の製作/ゴシックアーチとタッピングポイントの記録	14・15・16 回目	P4: 症例提示/グループディスカッション(実習項目に関する検討)/各班プレゼンテーション	17・18 回目	P5: グループディスカッション(咬合採得方法)/各班プレゼンテーション	19・20・21 回目	L2: 顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論/ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ										
1・2・3回目	L1: かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/下顎の基本位と性質/下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/顎運動検査法																										
4・5・6回目	P1: 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き/印象採得/石膏注入/模型調整																										
7・8・9回目	P2: フェイスボウトランスファー/(咬合採得)/咬合器付着/チェックバイト記録/顎路計測																										
10・11・12・13 回目	P3: ゴシックアーチ描記装置の製作/ゴシックアーチとタッピングポイントの記録																										
14・15・16 回目	P4: 症例提示/グループディスカッション(実習項目に関する検討)/各班プレゼンテーション																										
17・18 回目	P5: グループディスカッション(咬合採得方法)/各班プレゼンテーション																										
19・20・21 回目	L2: 顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論/ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ																										

キーワード	咬合, 顎位調節, ゴシックアーチ, 調節性咬合器, 顎機能障害
教科書・教材・参考書	教科書: 無歯顎補綴治療学(市川哲雄ら編 医歯薬) 歯学生のパーシャルデンチャー(赤川安正ら編 医歯薬), 基礎歯科生理学(岩田幸一ら編 医歯薬) 参考書: 新編 顎関節症 第3版 (日本顎関節学会編集 永末書店)
成績評価の方法・基準等	定期試験時の筆記試験(70点), 実習に対する取り組み方(10点), 随時出題レポート(20点)
受講要件(履修条件)	総授業時間の2/3以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	これまでに基礎・臨床科目で系統的に教授されてきた内容を関連づけて復習し, 咬合・顎機能への理解を深めること, 将来の臨床における補綴/咬合治療の指標となることを期待する。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・原田佳枝/大学病院における診療経験/治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・鳥巢 哲朗/顎口腔機能障害患者の診断・治療および顎口腔機能に関する研究/治療および研究の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・原田佳枝/大学病院における診療経験/治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・吉田 和弘/大学病院における診療経験/治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・岡崎ひとみ/大学病院における診療経験/治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・野黒美麻由子/大学病院における診療経験/治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供

日程表(顎口腔機能・解析学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	1	講義1:顎口腔系の機能と構成 かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/	鳥巢	講義室6B
2回	4	1	水	2	講義1:顎口腔系の機能と構成 下顎の基本位と性質/下顎基本運動/下顎限界運動	鳥巢	講義室6B
3回	4	1	水	3	講義1:顎口腔系の機能と構成 下顎機能運動/歯の接触/顎運動検査法	鳥巢	講義室6B
4回	4	8	水	1	実習1:顎機能および咬合接触状態、顎筋/顎関節の診査, 実習2:印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
5回	4	8	水	2	実習1:顎機能および咬合接触状態、顎筋/顎関節の診査, 実習2:印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
6回	4	8	水	3	実習1:顎機能および咬合接触状態、顎筋/顎関節の診査, 実習2:印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
7回	4	15	水	1	実習3:フェイスポートランスファー/咬合採得/咬合器付着	教員8名	臨床実習室4B
8回	4	15	水	2	実習4:チェックバイト/顎路計測/咬合器調節	教員8名	臨床実習室4B
9回	4	15	水	3	実習4:チェックバイト/顎路計測/咬合器調節	教員8名	臨床実習室4B
10回	4	22	水	1	実習5:ゴシックアーチ描記装置製作	教員8名	臨床実習室4B
11回	4	22	水	2	実習5:ゴシックアーチ描記装置製作	教員8名	臨床実習室4B
12回	4	22	水	3	実習6:ゴシックアーチとタッピングポイントの描記	教員8名	臨床実習室4B
13回	5	13	水	1	実習6:ゴシックアーチとタッピングポイントの描記(つづき)	教員8名	臨床実習室4B
14回	5	13	水	2	実習7-1 グループディスカッション(実習項目) 実習項目に関する検討 咬合採得を行う症例の提示	教員8名	臨床実習室4B
15回	5	13	水	3	実習7-1 グループディスカッション(実習項目) 実習項目に関する検討	教員8名	臨床実習室4B
16回	5	20	水	1	実習7-1:各班発表 実習項目に関する検討結果	教員8名	臨床実習室4B
17回	5	20	水	2	実習7-2:グループディスカッション 提示症例の咬合採得方法を検討	教員8名	臨床実習室4B
18回	5	20	水	3	実習7-2:各班発表 咬合採得方法の検討結果	教員8名	臨床実習室4B
19回	5	27	水	1	講義2:咬合理論の変遷/顎口腔機能障害患者への対応/総括 実習のまとめ/顎運動と咬合器	鳥巢	講義室6B
20回	5	27	水	2	講義2:咬合理論の変遷/顎口腔機能障害患者への対応/総括 顎機能障害の病態/咬合との関わり方	鳥巢	講義室6B
21回	5	27	水	3	講義2:咬合理論の変遷/顎口腔機能障害患者への対応/総括 ナソロジーと中心位/生理学的咬合論	鳥巢	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054609		
科目ナンバリング・コード	DNGD33321988		
授業科目名/(英語名)	成育歯学/(Pediatric and Orthodontic Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義	教室 PBL室, 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp/ 歯科矯正学/819-7669, 小児歯科学/819-7672, 口腔保健学/819-7663, 不在時をのぞき 17:00 以降			
担当教員(オムニバス科目等)	講義担当—吉田教明, 日高 聖, 川下由美子, 森田幸子, 嘉ノ海龍三(非常勤講師) PBL担当—森田幸子		
授業の概要及び位置づけ 4年次までに既に学習した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学などの基礎知識を学生自ら総合的に再構築し, 成育歯学としてこどものライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理ができるように検査, 診断, 治療, メンテナンスについて総合的理解を深める。			
授業到達目標 (1) 自ら問題を発見し, その問題解決のため積極的に行動し結果を説明できる。 (2) ライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理の重要性が理解できる。 (3) 正常な発生, 成長発育および加齢による形態的・機能的特徴が説明できる。 (4) 成長発育の異常や不正咬合の種類, 原因および予防法が列挙できる。 (5) 成長発育の異常や不正咬合の治療の必要性, 適切な治療開始時期, 予後を説明できる。 (6) 成長発育の異常や不正咬合の検査, 診断, 治療計画, 治療法が説明できる。 (7) 矯正治療による医原性障害とその処置と予防を説明できる。 (8) 唇顎口蓋裂, 先天異常, 顎変形症に対する診断, 管理, 治療の流れが説明できる。			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ, リサーチマインドを修得している。 DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し, 先端医療を実践するために, 生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。			
授業方法(学習指導法) PBL チュートリアル形式(21回)と講義形式(7回)合計 28回実施。			
授業内容 (概要) 21回はシナリオを使つてのPBL形式の授業を行い, 7回は講義形式の授業を行う。 講義は「成育歯科」のPBL型授業を通して, 学生自らが顎顔面口腔領域におけるこどもの成長発育に関する知識を統合させ, ライフスタイルに応じた口腔保健管理, 咬合管理について学習したことをベースに, より専門性の高い知識を提供することを目的とする。 (内容) 1回目 PBL チュートリアルケース1 2回目 PBL チュートリアルケース1 3回目 PBL チュートリアルケース1 4回目 ケース1自学自習 5回目 ケース1自学自習 6回目 ケース1自学自習 7回目 ケース1自学自習 8回目 PBL チュートリアルケース1セッション 9回目 PBL チュートリアルケース1セッション 10回目 PBL チュートリアルケース2 11回目 ケース2自学自習 12回目 ケース2自学自習 13回目 ケース2自学自習 14回目 ケース2自学自習 15回目 PBL チュートリアルケース2セッション 16回目 PBL チュートリアルケース2セッション 17回目 ケース1, 2学習後の自己・相互評価 18回目 プレゼンテーション資料作成自学自習 19回目 プレゼンテーション(グループごとに) 20回目 プレゼンテーション(グループごとに)			

21 回目	プレゼンテーション(グループごとに)	
22 回目	講義 1 「う蝕予防管理」	川下 由美子
23 回目	講義 2 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」	日高 聖
24 回目	講義 3 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常 1」	日高 聖
25 回目	講義 4 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常 2」	日高 聖
26 回目	講義 5 「不正咬合の成り立ち」	森田 幸子
27 回目	講義 6 「成長期の上顎前突・反対咬合の第 I 期治療」	嘉ノ海 龍三
28 回目	講義 7 「自主学習 (レポート作成)」	吉田 教明
キーワード	ライフサイクル, 発生, 成長発育, う蝕, 歯髄炎, 不正咬合, 原因, 予防, 診断, 治療	
教科書・教材・参考書	口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学で掲載しているもの	
成績評価の方法・基準等	PBL形式授業は 出席, 態度, 討議内容, 自学自習の結果の発表 などを各担当のファシリテータが総合的に評価。定期考査は, レポート提出とする。点数の配点は, 時間数に応じてPBL評価と提出レポートとで総合評価し 60 点以上を合格とする。	
受講要件(履修条件)	出席率は学部規則に従って評価する。3/4 以上の出席で受験資格を得る。	
備考(学生へのメッセージ)	ライフサイクルを考慮した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学についての自己学習は必須。	
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田 教明／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に矯正歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・日高 聖／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に小児歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・川下 由美子／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に予防歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・森田 幸子／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に矯正歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・嘉ノ海 龍三(非常勤講師)／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／成育歯学臨床 (特に矯正歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 	

日程表(成育歯学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	金	1	PBLチュートリアルケース1	教員6名	PBL室
2回	4	3	金	2	PBLチュートリアルケース1	教員6名	PBL室
3回	4	3	金	3	PBLチュートリアルケース1	教員6名	PBL室
4回	4	3	金	4	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
5回	4	3	金	5	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
6回	4	3	金	6	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
7回	4	3	金	7	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
8回	4	16	木	1	PBLチュートリアルケース1セッション	教員6名	PBL室
9回	4	16	木	2	PBLチュートリアルケース1セッション	教員6名	PBL室
10回	4	16	木	3	PBLチュートリアルケース2	教員6名	PBL室
11回	4	16	木	4	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
12回	4	16	木	5	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
13回	4	16	木	6	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
14回	4	16	木	7	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
15回	4	24	金	1	PBLチュートリアルケース2セッション	教員6名	PBL室
16回	4	24	金	2	PBLチュートリアルケース2セッション	教員6名	PBL室
17回	4	24	金	3	ケース1, 2学習後の自己・相互評価	教員6名	PBL室
18回	4	24	金	4	プレゼンテーション資料作成自学自習	教員6名	PBL室
19回	4	24	金	5	プレゼンテーション(グループごとに)	教員6名	講義室6B
20回	4	24	金	6	プレゼンテーション(グループごとに)	教員6名	講義室6B
21回	4	24	金	7	プレゼンテーション(グループごとに)	教員6名	講義室6B
22回	4	30	木	2	講義1 リソースセッション 「う蝕予防管理」	川下	講義室6B
23回	4	30	木	3	講義2 リソースセッション 「ライフサイクルに応じた口腔健康管理・咬合管理」	日高	講義室6B
24回	6	5	金	4	講義3 リソースセッション 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常1」	日高	講義室6B
25回	6	5	金	5	講義4 リソースセッション 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常2」	日高	講義室6B
26回	6	5	金	6	講義5 リソースセッション 「不正咬合の成り立ち」	森田	講義室6B
27回	6	18	木	7	講義6 リソースセッション 「成長期の上顎前突・反対咬合の第1期治療」	嘉ノ海	講義室6B
28回	6	25	木	7	講義7 リソースセッション 自主学習(レポート作成)	吉田	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054606		
科目ナンバリング・コード	DNGD33291987		
授業科目名/(英語名)	口腔腫瘍学/(Oral Oncology)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 PBL室・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8階口腔顎顔面外科学分野医局/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	山田朋弘、安田光佑		
授業の概要 口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の概要を理解し、診断・治療の進め方を理解する。			
授業到達目標		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
一般目標 GIO: 腫瘍の診断と治療について理解し、その内容を説明できる。			
個別行動目標 SBOs:			
1.腫瘍の種類と特徴を説明できる。		E-2-4)	
2.腫瘍の診断と治療法を説明できる。		E-2-4)	
対応するディプロマポリシー DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。			
授業方法(学習指導法) PBL および講義を行う。PBL では、口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の症例に関して、臨床像をより具体的に供覧し、コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を高めるようにする。講義では、口腔腫瘍学における最新の知見及び PBL で得られた知識の確認が行えるようにする。			
授業内容 1 回目 PBL 症例 part1 シナリオの提示、事実の抽出および仮説の設定(担当:各ファシリテータ) 2 回目 PBL 症例 part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 3 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 4 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 5 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 6 回目 PBL 症例 part1 セッション(担当:各ファシリテータ) 7 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 8 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 9 回目 PBL 症例 part2 シナリオの提示、事実の抽出、仮説、学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 10 回目 PBL 症例 part2 仮説に基づいた学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 11 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 12 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 13 回目 PBL 症例 part2 セッション、PBL 自己評価および相互評価(担当:各ファシリテータ) 14 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 15 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 16 回目 プレゼンテーション 17 回目 プレゼンテーション 18 回目 プレゼンテーション 19 回目 予備 20 回目 予備			
キーワード	口腔癌, 歯源性腫瘍, 非歯源性腫瘍, 非歯源性悪性腫瘍,		
教科書・教材・参考書	特に指定せず		
成績評価の方法・基準等	PBL での討議および発表を評価 60%, テスト(客観試験)40%		

受講要件(履修条件)	規定の通り
備考(学生へのメッセージ)	口腔腫瘍の診断・治療は大変重要な分野です。十分な学習をされることを期待します。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・山田 朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・安田 光佑／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。

日程表(口腔腫瘍学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	木	1	PBL症例part1 シナリオの提示, 事実の抽出および仮説の設定	各ファシリテータ	PBL室
2回	4	2	木	2	PBL症例part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	PBL室
3回	4	2	木	3	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
4回	4	2	木	4	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
5回	4	2	木	5	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
6回	4	2	木	6	PBL症例part1 セッション	各ファシリテータ	PBL室
7回	4	2	木	7	PBL症例part1 プレゼンテーション資料作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
8回	4	2	木	8	PBL症例part2 プレゼンテーション資料作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
9回	4	9	木	1	PBL症例part2 シナリオの提示, 事実の抽出および仮説の設定	各ファシリテータ	PBL室
10回	4	9	木	2	PBL症例part2 仮説に基づいた学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	PBL室
11回	4	9	木	3	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
12回	4	9	木	4	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	PBL室
13回	4	9	木	5	PBL症例part2 セッション	各ファシリテータ	PBL室
14回	4	9	木	6	プレゼンテーション資料作成(自学自習)	各ファシリテーター	PBL室
15回	4	9	木	7	プレゼンテーション資料作成(自学自習)	各ファシリテーター	PBL室
16回	4	14	火	4	プレゼンテーション	山田/安田	講義室6B
17回	4	14	火	5	プレゼンテーション	山田/安田	講義室6B
18回	4	23	木	1	プレゼンテーション	山田/安田	講義室6B
19回	4	23	木	2	予備		講義室6B
20回	4	23	木	3	予備		講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054635		
科目ナンバリング・コード	DNGD33441987		
授業科目名/(英語名)	唾液腺疾患と障害/(Salivary Gland Diseases and Disorders)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 PBL室・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井隆司/ i-takashi@nagasaki-u.ac.jp /先進口腔医療開発学/095-819-7706(内 7706)/月曜 14:00~15:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	住田吉慶、井隆司、筑波隆幸、片瀬直樹、小山田常一、高木幸則、山田朋弘、梅田雅孝		
授業の概要及び位置づけ 唾液腺疾患と障害の基本知識を理解し、習得する。唾液腺疾患の診断・治療の進め方を考え、臨床における判断力を習得する。PBL方式を導入し、症例を基に必要な検査・診断・治療法を学生自ら提示し、それを解決する意欲・態度を養い、知識・自主性を身につける。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 唾液腺疾患と障害における症状・病態を理解する。唾液腺における自己免疫疾患、腫瘍、炎症を理解する。唾液腺疾患の概念、発症機序及び病理的特徴を理解し、加えて薬理学的・解剖学的知識に基づいた治療方針の提示ができる。 個別行動目標 SBOs: 1. 唾液腺の構造、機能及び分泌調整機序を説明できる。 E-2-2) 2. 唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4) 3. 唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4) 4. 唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4) 5. Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4) 6. 口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫異常の症状を説明できる。 E-2-4)			
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。			
授業方法(学習指導法) PBL形式を採用し、併せて講義形式で行う。シナリオに基づきグループごとに学生自らが問題を発見し、解釈、解決する自学・自習を基本とした学習形態を整える。学生が自学自習で得た知識を自ら確認できるように、講義において解説を行う。			
授業内容 1 回目 シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担 2 回目 問題点抽出、調査項目決定 3 回目 各自調査、自習 4 回目 各自調査、自習 5 回目 グループごとに討論、まとめ、レポート提出 6 回目 グループごとに討論、まとめ、レポート提出 7 回目 唾液腺疾患の診断 8 回目 唾液腺疾患(嚢胞・炎症・唾石) 9 回目 口腔乾燥症(改善薬)の薬理 10 回目 唾液腺腫瘍の病理 11 回目 唾液腺と周囲組織の解剖 12 回目 シェーグレン症候群 13 回目 IgG4 関連疾患 14 回目 唾液腺疾患(良性腫瘍) 15 回目 唾液腺疾患(悪性腫瘍)			
キーワード	唾液腺疾患		
教科書・教材・参考書	口腔外科学 白砂兼光 他 医歯薬出版/標準口腔外科学 瀬戸皖一 他 医学書院/ 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社		
成績評価の方法・基準等	発表、討論態度 50% 試験 50% 到達目標の理解度の評価		
受講要件(履修条件)	2/3以上の出席、授業中の態度、積極性		
備考(学生へのメッセージ)	これまでの講義で培った知識のアウトプットをすることで知識のブラッシュアップを図ります。		
実務経験のある教員による授業科目	・井 隆司/長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務/再生医療研究・口腔外科学についての講義 ・住田 吉慶/名古屋大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務/唾液腺疾患の診断についての講義		

	<ul style="list-style-type: none"> ・片瀬 直樹／長崎大学の病院における病理診断業務の経験、歯科医学研究の実務／唾液腺腫瘍の病理についての講義 ・高木 幸則／長崎大学の病院歯科放射線科・口腔乾燥外来における診察の経験、歯科医学研究の実務／シェーグレン症候群についての講義 ・山田 朋弘／九州大学・長崎大学の病院口腔外科における診察の経験、歯科医学研究の実務／唾液腺腫瘍についての講義 ・梅田 雅孝／長崎大学の病院リウマチ・膠原病内科における診察の経験、医学研究の実務／IgG4関連疾患についての講義
--	--

日程表(唾液腺疾患と障害)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	火	2	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	PBL室
2回	4	7	火	3	問題抽出、調査項目決定	井	PBL室
3回	4	21	火	4	各自調査、自習	井	PBL室
4回	4	21	火	5	各自調査、自習	井	PBL室
5回	4	28	火	4	まとめ、レポート提出	井	PBL室
6回	4	28	火	5	まとめ、レポート提出	井	PBL室
7回	5	12	火	1	唾液腺疾患の診断	住田	講義室6B
8回	5	12	火	2	唾液腺疾患(嚢胞・炎症・唾石)	井	講義室6B
9回	5	12	火	3	口腔乾燥症(改善薬)の薬理	筑波	講義室6B
10回	5	19	火	1	唾液腺腫瘍の病理	片瀬	講義室6B
11回	5	19	火	2	唾液腺と周囲組織の解剖	小山田	講義室6B
12回	5	19	火	3	シェーグレン症候群	高木	講義室6B
13回	5	26	火	1	IgG4関連疾患	梅田	講義室6B
14回	5	26	火	2	唾液腺疾患(良性腫瘍)	山田	講義室6B
15回	5	26	火	3	唾液腺疾患(悪性腫瘍)	山田	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054627 DNGD33561987 周術期口腔機能管理学/Professional management of oral function in perioperative period)		
対象年次 5 年次	講義形態 PBL形式 講義形式	教室 PBL 室、講義室 6B	
対象学生(クラス等)	5 年生	科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鵜飼 孝/ ukai@nagasaki-u.ac.jp / 口腔管理センター/095-819-7707(内 7707)/月曜 13:00～14:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	鵜飼 孝、黒木唯文、吉松昌子、中尾紀子		
授業の概要 周術期口腔機能管理についての講義を行う。 学生が症例を基に患者の病態を理解し、治療法を考えグループで問題を提起し、それを解決する意欲・態度を養い、知識・自主性を身につける。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 周術期口腔管理において必要な治療を選択できる知識を身につける。 個別行動目標 SBOs: 1.診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 2.歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。 3.各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 4.各情報から患者の病態を理解し、治療法を計画できる力を身につける。	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 E-1-1), E-1-2), E-1-3) E-1-3), E-5-1) E-1-3), E-6 A-3		
対応するディプロマポリシー DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断し、治療計画を立案できる臨床能力を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。			
授業方法(学習指導法) 主に講義形式で行い、一部 PBL形式を採用する。PBL では症例に基づきグループごとに学生自らが問題を発見、解釈、解決する学習形態で実施する。			
授業内容 1 回目：周術期口腔機能管理とは(PBL) 2 回目：周術期口腔機能管理とは(PBL) 3 回目：周術期口腔機能管理とは(PBL) 4 回目：化学療法・放射線治療患者の口腔管理 5 回目：がん手術患者の口腔管理 6 回目：心臓手術患者の口腔管理 7 回目：幹細胞、臓器移植患者の口腔管理 8 回目： 往診口腔管理・術直後の口腔管理 9 回目：誤嚥性肺炎・緩和ケア 10 回目：骨吸収抑制薬使用患者の口腔管理(歯周治療、エンド治療) 11 回目：連携と管理 12 回目：義歯・顎補綴・口腔機能管理 13 回目：症例提示、計画立案、発表、討論(PBL) 14 回目：症例提示、計画立案、発表、討論(PBL) 15 回目：症例提示、計画立案、発表、討論(PBL)			
キーワード	周術期口腔機能管理		

教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	・出席 30%、発表・討論態度 30%、レポート(理解度で評価する)40%
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席、授業への取り組み状況、各グループでの討論での積極性などを重視します。
備考(学生へのメッセージ)	これからの歯科医療において重要な分野となりますのでしっかりと理解してください。
実務経験のある教員による授業科目	・鶴飼 孝、黒木唯文、吉松昌子、中尾紀子／長崎大学病院口腔管理センター診療に従事／診療経験を基に歯科診療に必要な知識について教授する。

日程表(周術期口腔機能管理学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	7	木	1	周術期口腔機能管理とは(PBL)	鵜飼・黒木・吉松	講義室6B, PBL室
2回	5	7	木	2	周術期口腔機能管理とは(PBL)	鵜飼・黒木・吉松	講義室6B, PBL室
3回	5	7	木	3	周術期口腔機能管理とは(PBL)	鵜飼・黒木・吉松	講義室6B, PBL室
4回	6	10	水	4	化学療法・放射線治療患者の口腔管理	鵜飼	講義室6B
5回	6	10	水	5	がん手術患者の口腔管理	黒木	講義室6B
6回	6	10	水	6	心臓手術患者の口腔管理	吉松	講義室6B
7回	6	19	金	4	幹細胞、臓器移植患者の口腔管理	黒木	講義室6B
8回	6	19	金	5	往診口腔管理・術直後の口腔管理	中尾	講義室6B
9回	6	19	金	6	誤嚥性肺炎・緩和ケア	鵜飼	講義室6B
10回	6	24	水	4	骨吸収抑制薬使用患者の口腔管理(歯周治療、エンド治療)	鵜飼	講義室6B
11回	6	24	水	5	連携と管理	鵜飼	講義室6B
12回	6	24	水	6	義歯・顎補綴・口腔機能管理	黒木	講義室6B
13回	7	1	水	4	症例提示、計画立案、発表、討論(PBL)	鵜飼・黒木・吉松	講義室6B, PBL室
14回	7	1	水	5	症例提示、計画立案、発表、討論(PBL)	鵜飼・黒木・吉松	講義室6B, PBL室
15回	7	1	水	6	症例提示、計画立案、発表、討論(PBL)	鵜飼・黒木・吉松	講義室6B, PBL室

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054628		
科目ナンバリング・コード	DNGD 33571992		
授業科目名/(英語名)	生活習慣病と口腔/(Life-Style Related Disease and Oral Environment)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・e-learning 形式	教室	講義室 6B
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	統合科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	近藤 好夫/yosioji@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7757(内 7757)/随時 ※来室前に確認のこと		
担当教員(オムニバ ス科目等)	近藤 好夫, 西村英紀(非常勤講師 九州大学)		
授業の概要	<p>生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。歯学と医学そして行政との融合を理解する。</p> <p>なおこの講義は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の一環として行われる。</p>		
授業到達目標	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】		
一般目標 GIO:	E-3-3)-(3)-①,		
生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。	F-3-2)-⑤		
個別行動目標 SBOs:			
1.食生活、栄養、口腔疾患と全身の健康について説明できる。			
2.健康増進に寄与する歯科医学について説明できる。			
対応するディプロマポリシー	DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。		
授業方法(学習指導法)	講義及び e-learning を用いた講義による。		
授業内容	<p>1 回目: 講義シリーズ1 (e-learning 1) 認知症と生活習慣病</p> <p>2 回目: 講義シリーズ1 (e-learning 2) 運動器リハビリテーション概説</p> <p>3 回目: 講義シリーズ1 (e-learning 3) 口腔の健康が出産へ及ぼす影響-歯周病と早産・低体重児出産の関連-</p> <p>4 回目: 講義シリーズ1 (e-learning 4) 生活習慣病に対する栄養学的アプローチ</p> <p>5 回目: 講義シリーズ1 (e-learning 5) 睡眠時無呼吸症候群の概要と歯科的アプローチ</p> <p>6 回目: 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連 1(仮題)</p> <p>7 回目: 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連 2(仮題)</p> <p>8 回目: 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連 3(仮題)</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	指定無し		
成績評価の方法・基準等	講義受講および e-learning 受講後に実施される確認テストおよび受講後のレポートにより評価する。		
受講要件(履修条件)	予定されるすべての e-learning の確認テストに合格し、同 e-learning のレポートが提出されていること。 対面講義を欠席した場合は e-learning を追加する。		
備考(学生へのメッセージ)	対面講義と e-learning が混在するため注意すること。かなり現場に近い講義シリーズになるが、自らが歯科医師としてどのように関わるかを想像しながら聴講していただきたい。対面講義においては講師に対し礼を失しないよう振る舞うこと。		
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・近藤 好夫/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に生活習慣病と口腔に関する基礎を教授する。 ・西村 英紀/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に生活習慣病と口腔に関する健康科学について教授する。 		

日程表(生活習慣病と口腔)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	6	講義シリーズ1(e-learning 1) 認知症と生活習慣病	菱川 望	講義室6B
2回	4	8	水	6	講義シリーズ1(e-learning 2) 運動器リハビリテーション概説	築山 尚司	講義室6B
3回	4	15	水	6	講義シリーズ1(e-learning 3) 口腔の健康が産後へ及ぼす影響ー歯周病と早産・低体重児出産の関連ー	長谷川 梢	講義室6B
4回	4	23	木	6	講義シリーズ1(e-learning 4) 生活習慣病に対する栄養学的アプローチ	長谷川 祐子	講義室6B
5回	4	30	木	6	講義シリーズ1(e-learning 5) 睡眠時無呼吸症候群の概要と歯科的アプローチ	水口 一	講義室6B
6回	5	8	金	4	健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連1(仮題)	西村英紀	講義室6B
7回	5	8	金	5	健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連2(仮題)	西村英紀	講義室6B
8回	5	8	金	6	健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連3(仮題)	西村英紀	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
授業コード	25054618		
科目ナンバリング・コード	DNGD33401987		
授業科目/(英語名)	睡眠障害と疾患/(Sleep related breathing Disorder)		
対象年次 5年次	講義形態 講義	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	中村 渉:wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A棟4階25号室/095-819-7636(内7636)/16:00~18:00		
担当教員(オムニバス科目等)	中村渉、柳本惣市(広島大学), 内村直尚(久留米大学), 遠藤拓郎(慶應義塾大学) 加藤隆史(大阪大学), 江崎和久(久留米大学), 江川哲治, 砂川玄志郎(理化学研究所)		
授業の概要	睡眠障害が引き起こす、さまざまな歯科的な疾患の病態を理解し、歯科的な治療法を用いる場合の、臨床的な注意点を学習する。そのために、睡眠に関する生理学的な機能を理解する。また、閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療方法の実際を、勉強する。		
授業到達目標/ 一般目標 GIO: 個別行動目標 SBOs:	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠障害に関連する歯科的疾患の病態と治療法を理解する。 睡眠時無呼吸の原因、診察、検査、診断及び治療方針を概説できる。 <p>【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 E-2-4)-(11)</p>		
対応するディプロマポリシー	<p>DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。</p> <p>DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。</p> <p>DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。</p>		
授業方法(学習指導法)	講義ではスライドを中心に、プリントの配付と板書を使用する。また、PBL形式で病態の理解を深め睡眠障害の病態生理機構を学ぶ。		
授業内容 講義	<p>1回目: 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法 (医科的な治療方法について) 担当 内村</p> <p>2回目: 睡眠学概論(自然睡眠の生理学的な役割と睡眠障害の病態生理について) 担当 遠藤</p> <p>3回目: 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法 (歯科的な治療方法について) 担当 江崎</p> <p>4回目: 睡眠時ブラキシズムの病態 (睡眠時ブラキシズムの病態生理について) 担当 加藤</p> <p>5回目: 口腔生理学から生涯歯科学へ“Timing is Everything” 担当 中村渉</p> <p>6回目: アスリートからみたスポーツ歯学 担当 江川</p> <p>7回目: 睡眠障害と疾患問題演習① 担当 中村渉</p> <p>8回目: 閉塞型睡眠時無呼吸の長崎大学での歯科的治療の診断・治療上の注意点を学ぶ 担当 柳本</p> <p>9回目: 睡眠障害と疾患問題演習② 担当 中村渉</p> <p>10回目: 人工冬眠の臨床応用に向けて 担当 砂川</p>		
キーワード	閉塞型睡眠時無呼吸症候群, ブラキシズム, サーカディアンリズム		
教科書・教材・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 睡眠のしくみ 内村直尚 (監修) レコーディング快眠法 三島和夫 朝日新聞出版 睡眠のメカニズム 井上昌次郎 編 朝倉書店 サーカディアンリズムと睡眠 千葉茂・本間研一 人間の内なる時計 サージ・ダーン著本間研一訳 北海道大学出版会 NHKスペシャル 病の起源 NHK出版 		
成績評価の方法・基準等	出席率、授業中の態度・積極的取り組みを重視。講義レポートにより成績評価を行う。		
受講要件(履修条件)	既に学習した基礎科目の知識を基盤とした臨床科目という観点から捉える必要がある。従って、疑問を感じた場合は、随時・適宜基礎科目の復習が必要となる。		
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・内村 直尚/歯科医院における診療経験(精神医学) /大学病院における診療経験を元に精神医学に関する講義を行う。 ・加藤 隆史/大阪大学医学部附属病院における診療経験(睡眠障害治療) /診療経験を元に睡眠障害治療に関する講義を行う。 ・江崎 和久/現役歯科医師が歯科医院における実務経験(睡眠障害治療) /自院での診療経験を元に睡眠障害治療に関する講義を行う。 ・中村 渉 /大学病院における診療経験(睡眠障害治療)/診療経験を元に睡眠障害治療に関する 		

	<p>講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・柳本 愨市／広島大学病院における診療経験(口腔外科学・周術期管理)／大学病院における診療経験を元に口腔外科学・周術期管理に関する講義を行う。
--	---

日程表(睡眠障害と疾患)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	7	6	月	1～2	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的な治療法について	内村直尚	講義室6B
2回	7	6	月	2～3	睡眠学概論 自然睡眠の生理学的な役割(サーカディアンリズム)と睡眠障害の病態生理について	遠藤拓郎	講義室6B
3回	7	7	火	4～5	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療法について	江崎和久	講義室6B
4回	7	7	火	5～6	睡眠時ブラキシズムの病態生理	加藤隆史	講義室6B
5回	7	13	月	1～2	サーカディアンリズムと睡眠調節機構の最新知見 “Timing is Everything”	中村渉	講義室6B
6回	7	13	月	2～3	アスリートからみたスポーツ歯学	江川哲治	講義室6B
7回	7	14	火	4～5	「大学病院における閉塞型睡眠時無呼吸症候群治療の実際」	柳本惣市	講義室6B
8回	7	14	火	5～6	睡眠学PBL① 睡眠障害と関連疾患に関する病態を問題演習形式で学習する	中村渉	講義室6B
9回	7	21	火	4～5	人工冬眠の臨床応用に向けて ～能動的低代謝を体温管理療法に応用できるか?～	砂川玄志郎	講義室6B
10回	7	21	火	5～6	睡眠学PBL② 睡眠障害と関連疾患に関する病態を問題演習形式で学習する	中村渉	講義室6B

年度 2026 学期 2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054621 DNGD33431990 離島歯科医学/(Dentistry in remote island)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川下由美子/yumiko-t@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学医局/095-819-7663(内 7663)/木曜 17:00～			
担当教員(オムニバ ス科目等)	非常勤講師:小牧憲明(こまき歯科医院)、星野 行孝(鹿児島大学)、野中文陽(医学部)、田中 康友、北村 恵一、草場 謙至(長崎大学病院)、多田浩晃(歯学部)		
授業の概要 離島歯科保健医療実習について、その意義や目的を学ぶ。後期から始まる実習では介護や行政の仕事を実際に体験し、歯科 医院実習では訪問歯科や小離島診療所ほか、離島ならではの診療の様子、求められる歯科のあり方を知ることができる。 長崎県は日本一離島が多い県である。離島における歯科医療、保健、福祉について学修する。 さらに、多職種連携についても学修する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: (離島)地域における医療、保健、福祉の実際を通して、地域包括ケアシステムや多 職種連携の概念を理解する。 患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を身に付け る。 個別行動目標 SBOs: 1. 地域社会(へき地・離島を含む)における歯科医療の現状を概説できる。 2. 地域包括ケアシステムの概念、および多職種連携の在り方を理解する。 3. かかりつけ歯科医等の役割を理解する。 4. 地域における在宅医療、救急医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。 5. 医療チームや各構成員(歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科 技工士、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制を説明できる。 6. 保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科医師の役割を説明できる。		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリ キュラム】 A-7 A-5 A-7-1) A-7-1) A-7-1) A-7-1)	
対応するディプロマポリシー DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。 DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意志を持って、歯科口腔医療を実践できる。			
授業方法(学習指導法) 講義形式			
授業内容 1 回目:多職種連携①(理学療法士として) (田中) 2 回目:多職種連携②(作業療法士として) (北村) 3 回目:多職種連携③(言語聴覚士として) (草場) 4 回目:離島における歯科医療について (小牧) 5 回目:離島歯科保健医療実習について (多田) 6 回目:鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について (星野) 7 回目:離島の定義、特徴および離島医療について (野中) 8 回目:離島の定義、特徴および離島医療について (野中) / 五島調査の紹介 (川下)			
キーワード	離島、地域医療、保健、福祉		
教科書・教材・参考書	離島・へき地医療学講座、離島医療研究所ホームページ、 http://ritouken.com		
成績評価の方法・基準 等	レポート:課題をラックスにて案内する。 レポートは、レポートとして必要なことが説明されているか評価され、60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセー ジ)	離島実習開始前に学務係から ID/PW を受け取りログインして実習開始前アンケートに答えること。 非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視します。 ※外部からの講師が多いため、日程の変更時には、ラックスならびに学務係を通じて事前にお知らせ します。		

<p>実務経験のある教員による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧 憲明／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／島嶼地域における歯科医院の取り組みについて説明する。 ・星野 行孝／現役歯科医師が大学病院における実務経験／島嶼地域における歯科医療の意義、取り組みについて説明する。 ・野中 文陽／現役医師が大学病院と五島中央病院における実務経験／島嶼地域における医療保健福祉の意義、取り組みについて説明する。 ・田中 康友／現役理学療法士が大学病院における実務経験／理学療法士と多職種連携の意義、取り組み方を説明する。 ・北村 恵一／現役作業療法士が大学病院における実務経験／作業療法士と多職種連携の意義、取り組み方を説明する。 ・草場 謙至／現役作業療法士が大学病院における実務経験／作業療法士と多職種連携の意義、取り組み方を説明する。 ・多田 浩晃／現役歯科医師が大学病院における実務経験／島嶼地域における歯科医療の意義、取り組みについて説明する。 ・川下 由美子／現役歯科医師が大学病院における実務経験／島嶼地域における歯科医療の意義、取り組みについて説明する。
-------------------------	---

離島歯科医学日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	26	金	4	多職種連携①(理学療法士として)	田中	講義室6B
2回	6	26	金	5	多職種連携②(作業療法士として)	北村	講義室6B
3回	6	26	金	6	多職種連携③(言語聴覚士として)	草場	講義室6B
4回	6	26	金	7	離島における歯科医療について	小牧	講義室6B
5回	7	21	火	3	離島歯科保健医療実習について	多田	講義室6B
6回	7	23	木	4	鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について	星野	講義室6B
7回	7	23	木	5	離島の定義、特徴および離島医療について	野中	講義室6B
8回	7	23	木	6	離島の定義、特徴および離島医療について／五島調査の紹介	野中／川 下	講義室6B

年度 2026 学期 2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054613		
科目ナンバリング・コード	DNGD33361991		
授業科目名/(英語名)	医療面接/(Medical Interview)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室 各部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 俣木志朗(非常勤講師 東京科学大学名誉教授), 服巻豊(非常勤講師 広島大学), 野中愛恵(非常勤講師 元 JICA ジュニア専門員), 近藤好夫, 多田浩晃, 久松徳子, 木村泰男(臨床教授), 森田幸子(協力教員), 吉見知子(協力教員), 森内絵美(協力教員), 富永淳也(協力教員)		
授業の概要 歯科疾患を抱える患者を全身的・全人的に捉える態度および問題解決志向に対する理解を深める。また、信頼関係を確立するためのコミュニケーションの重要性を理解し、その能力を身に付ける。これらを通して、歯科医師としての人格を涵養することの重要性を理解しなければならない。			
授業到達目標 一般目標 GIO :患者との良好な人間関係の構築するために必要なコミュニケーションに関する知識, 態度, 技術を身に付ける。 個別行動目標 SBOs :		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 A-1-2) 患者中心の視点 A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 A-3 診療技能と患者ケア A-4 コミュニケーション能力 A-5 チーム医療の実践 A-7 社会における医療の実践 A-7-2) 国際医療への貢献	
1. コミュニケーションの意義, 目的と技法(言語的・準言語的・非言語的)を説明する。(知識;想起) 2. 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを説明する。(知識;想起) 3. 患者の社会的・心理的背景を考慮する。(態度・習慣) 4. 患者の権利に配慮する。(態度・習慣) 5. 保健, 医療に関する国際的課題について理解し, コミュニケーションをとる際に配慮する。(態度・習慣) 6. 正確かつ必要十分な医療面接を行う。(技能)			
対応するディプロマポリシー DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP8: 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。 DP9: 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。			
授業方法(学習指導法) プリントとスライドを用いた講義, SGD 形式の学習, 模擬患者に対する医療面接実習およびビデオ学習。 はじめに, 医療面接に関する基礎知識とコミュニケーションの基本的技法を講義により学習する。次いで, 小グループ実習と模擬患者を用いたロールプレイ実習を行い, 形成的評価を繰返し受けることによって医療面接についての基本的態度, 技能および知識を修得する。さらに, 医療に携わる者としての人格の涵養に望ましい姿勢と態度を考える。			
授業内容 1 回目: 医療面接の目的と総論 2 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 1 3 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 2 4 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 3 5 回目: 対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング 1 6 回目: 対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング 2 7 回目: 対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング 3 8 回目: グローバルコミュニケーション 1 9 回目: グローバルコミュニケーション 2 10 回目: 医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療開始・診療中・診療後) 11 回目: SGD (医療面接実習評価シート作成), PLS (プロダクト発表) 12 回目: SGD (医療面接実習評価シート作成), PLS (プロダクト発表) 13 回目: ロールプレイ実習 1 (面接/評価トライアル) 14 回目: ロールプレイ実習 2 (面接/評価トライアル) 15 回目: SP シミュレーション実習 1 (初診時医療面接)			

16 回目：ロールプレイ実習 3（面接／評価トライアル） 17 回目：SP シミュレーション実習 2（初診時医療面接） 18 回目：SP シミュレーション実習 3（初診時医療面接）	
キーワード	コミュニケーション, 敬語, プロフェッショナリズム, 医療行動科学
教科書・教材・参考書	参考書: 医療面接技法とコミュニケーションのとり方, 福島統編, メジカルビュー社 よくわかる医療面接と模擬患者, 鈴木富雄・阿部恵子編, 名古屋大学出版会
成績評価の方法・基準等	医療行動科学は筆記試験またはレポートで評価する。医療面接実習は, 学生の相互評価, 模擬患者の評価およびファシリテーターの観察記録によって評価する。これらの平均点 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。また, 実習は必ず出席しなければならない。
備考(学生へのメッセージ)	他人の言葉から, 必要な情報を引き出すことを学びます。人に心を開いてもらえるよう, 言葉遣いだけでなく, 表情, 身だしなみにいたるまで, 自分を磨いてください。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・角 忠輝／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・俣木 志朗／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・服巻 豊／総合病院における 臨床心理士業務／総合病院における 臨床心理士としての経験を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・野中 愛恵／元国際協力事業団医療協力部第一課ジュニア専門員／JICA における経験を元に, 国際医療支援活動について講義形式の授業を行っている ・多田 浩晃／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・久松 徳子／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・木村 泰男／長崎大学病院における 歯科診療行為 / 大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・森田 幸子／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・吉見 知子／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・森内 絵美／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・富永 淳也／大学病院における 歯科診療行為／大学病院における 診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	2	火	1	医療面接の目的と総論	角 忠輝	講義室6B
2回	6	5	金	1	医療コミュニケーションをとるための技法 1	俣木志朗	講義室6B
3回	6	5	金	2	医療コミュニケーションをとるための技法 2	俣木志朗	講義室6B
4回	6	5	金	3	医療コミュニケーションをとるための技法 3	俣木志朗	講義室6B
5回	6	17	水	4	対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング1 ー自己理解と他者理解の視点を育むー	服巻 豊	講義室6B
6回	6	17	水	5	対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング2 ー自己理解と他者理解の視点を育むー	服巻 豊	講義室6B
7回	6	17	水	6	対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング3 ー自己理解と他者理解の視点を育むー	服巻 豊	講義室6B
8回	7	2	木	4	グローバルコミュニケーション 1	野中愛恵	講義室6B
9回	7	2	木	5	グローバルコミュニケーション 2	野中愛恵	講義室6B
10回	7	3	金	4	医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療開始・診療中・診療後)	近藤好夫 /多田浩晃	講義室6B
11回	7	3	金	5	小グループ実習 医療面接実習評価シート作成 プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議	近藤好夫 /多田浩晃	講義室6B
12回	7	3	金	6	小グループ実習 医療面接実習評価シート作成 プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議	近藤好夫 /多田浩晃	講義室6B
13回	7	10	金	4	ロールプレイ実習1(面接/評価トライアル)	教員6	6教室
14回	7	10	金	5	ロールプレイ実習2(面接/評価トライアル)	教員6	6教室
15回	7	10	金	6	SPシミュレーション実習1(初診時医療面接)	教員6	6教室
16回	7	17	金	4	ロールプレイ実習3(面接/評価トライアル)	教員6	6教室
17回	7	17	金	5	SPシミュレーション実習2(初診時医療面接)	教員6	6教室
18回	7	17	金	6	SPシミュレーション実習3(初診時医療面接)	教員6	6教室

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054629 DNGD 33581990 医療倫理・プロフェッショナリズム論/(Medical Ethics and Professionalism)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・e-learning 形式	教室	講義室 6B
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	統合科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝、長谷 由紀子(非常勤講師 広島大学)		
授業の概要 患者は歯科医師と言う職業に対する信頼を有することで、全く知らない歯科医師に自らの診療を許している。プロフェッショナリズムとは社会の信頼を得るための保証を生み出すものとして定義される。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任を持って医療を実践するための態度、倫理観を有して行動できる。そのために、歯科医師としての自己を評価し生涯にわたって向上を図ることができる。		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-1, A-4-2)-⑥, ⑦, A-5-1)-⑤, ⑦, A-9	
個別行動目標 SBOs: 1. 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動できる。 2. 法的責任・規範を遵守する。 3. 他者の尊厳を尊重し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。 4. 患者とその関係者の心理・社会的要因と異文化、社会的背景に関心を払い、その立場を尊重する。 5. 常に自己を評価・管理し、自分の知識、技能、行動に責任を持つことができる。 6. 医科歯科連携および多職種連携を実践できる。 7. 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学修により常に自己の向上を図ることができる。 8. 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを説明でき、患者の権利に配慮できる。			
対応するディプロマポリシー DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP8: 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法) さまざまな方向性の事例を提示し、グループディスカッションを行い、発表により全体討論を行う。			
授業内容 1 回目:プロフェッショナリズム概論 2 回目:多職種で考えるプロフェッショナリズム論(仮題) 3 回目:多職種で考えるプロフェッショナリズム論(仮題) 4 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 1 SGD 5 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 1 発表 6 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 2 SGD 7 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 2 発表 8 回目:医療倫理・プロフェッショナリズム論 まとめ			
キーワード	医療倫理, プロフェッショナリズム		
教科書・教材・参考書	教科書:特に指定しない 参考書:医師のためのパフォーマンス学入門 日経 BP 社 話を聞かない医師 思いが言えない患者 集英社		
成績評価の方法・基準等	医療倫理・プロフェッショナリズム論は第 8 回目の授業中に筆記試験で評価する。プロフェッショナリズム演習は、学生の相互評価および観察記録によって評価する。これらの平均点 60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合、成績評価の対象とならない。		
備考(学生へのメッセージ)	信頼を得るとはどう言うことか、について絶えず自問自答し自らを磨いてほしい。		

<p>実務経験のある教員による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・角 忠輝／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に医療倫理・プロフェッショナリズムを教授する。 ・長谷 由紀子／大学病院における歯科診療、保健衛生業務／大学病院における診療行為を元に医療倫理・プロフェッショナリズムを教授する。
-------------------------	---

日程表(医療倫理・プロフェッショナリズム論)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	4	木	6	プロフェッショナリズム概論	角 忠輝	講義室6B
2回	6	25	木	5	多職種で考えるプロフェッショナリズム論(仮題)	長谷由紀子	講義室6B
3回	6	25	木	6	多職種で考えるプロフェッショナリズム論(仮題)	長谷由紀子	講義室6B
4回	6	29	月	2	プロフェッショナリズム演習 事例検討1 SGD	角 忠輝	講義室6B
5回	6	29	月	3	プロフェッショナリズム演習 事例検討1 発表	角 忠輝	講義室6B
6回	7	2	木	6	プロフェッショナリズム演習 事例検討2 SGD	角 忠輝	講義室6B
7回	7	22	水	2	プロフェッショナリズム演習 事例検討2 発表	角 忠輝	講義室6B
8回	7	22	水	3	医療倫理・プロフェッショナリズム論 まとめ	角 忠輝	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054630		
科目ナンバリング・コード	DNGD 33591992		
授業科目名/(英語名)	急性期医療/(Medical Care for an Acute Phase)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・e-learning 形式	教室	講義室 6B
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	統合科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 近藤 好夫/yosioji@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7757(内 7757)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバ ス科目等)	近藤 好夫		
授業の概要 周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法など、急性期医療における「口腔・全身健康学」の知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。医学、看護学、栄養学との融合を図る。 なおこの講義は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の一環として行われる。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法など、急性期医療における「口腔・全身健康学」の知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。 個別行動目標 SBOs: 1.全身状態を観察する目を養い、適切な全身管理法を学ぶ。 2.歯科治療時の全身的偶発症の対処法、予防法を学ぶ。 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 E-1-4)-(4)-③, E-1-5)-⑩, E-1-6)-①, E-6			
対応するディプロマポリシー DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP8: 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。 DP9: 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。			
授業方法(学習指導法) 主に e-learning を用いた講義による。			
授業内容 1 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 1) 歯学生・歯科医療者が知っておくべき臨床腫瘍学総論 2 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 2) 頭頸部癌に対する放射線治療の実際と顎口腔領域の合併症について 3 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 3) がん化学療法の実際と口腔内合併症への対策 4 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 4) 歯学生が知っておくべき集中治療の知識 5 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 5) 歯学生・歯科医師が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流 6 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 6) 歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期口腔管理・がん口腔支持療法の実際―総論― 7 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 7) 歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期看護 8 回目: 講義シリーズ2 (e-learning 8) 周術期の栄養管理について			
キーワード	全身管理 局所麻酔 全身偶発症の予防		
教科書・教材・参考書	指定無し		
成績評価の方法・基準等	講義受講後に実施される確認テストおよび受講後のレポートにより評価する。		
受講要件(履修条件)	予定されるすべての講義の確認テストに合格し、すべての講義のレポートが提出されていること		
備考(学生へのメッセージ)	かなり現場に近い講義シリーズになるが、自らが歯科医師としてどのように関わるかを想像しながら聴講していただきたい。		
実務経験のある教員による授業科目	・近藤 好夫/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に急性期医療に関する基礎を教授する。		

日程表(急性期医療)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	13	水	7	講義シリーズ2(e-learning 1) 「歯学生・歯科医療者が知っておくべき臨床腫瘍学総論」	田端 雅弘	講義室6B
2回	5	20	水	7	講義シリーズ2(e-learning 2) 「頭頸部癌に対する放射線治療の実際と顎口腔領域の合併症について」	松崎 秀信	講義室6B
3回	5	27	水	7	講義シリーズ2(e-learning 3) 「がん化学療法の実際と口腔内合併症への対策」	百合草 健圭志	講義室6B
4回	6	10	水	7	講義シリーズ2(e-learning 4) 「歯学生が知っておくべき集中治療の知識」	小林 求	講義室6B
5回	6	17	水	7	講義シリーズ2(e-learning 5) 「歯学生・歯科医師が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流」	森松 博史	講義室6B
6回	6	24	水	7	講義シリーズ2(e-learning 6) 「歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期口腔管理・がん口腔支持療法の実際－総論－」	曾我 賢彦	講義室6B
7回	7	1	水	7	講義シリーズ2(e-learning 7) 「歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期看護」	足羽 孝子	講義室6B
8回	7	8	水	7	講義シリーズ2(e-learning 8) 「周術期の栄養管理について」	長谷川 祐子	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054631		
科目ナンバリング・コード	DNGD 33601992		
授業科目名/(英語名)	在宅介護医療/(Home Medical Care)		
対象年次 5年次	講義形態 講義	教室	講義室 6B
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	統合科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 久松徳子/norinori@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7757(内 7757)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバ ス科目等)	久松徳子		
授業の概要 歯科医師の多くは開業医の医療提供体制で地域医療を担っているが、生活の自立度が比較的保たれた患者を診ることが多く、患者の終末期・死も含め、人の一生を見据える歯科医療の在り方を考える経験が少ない。患者の終末期・死も含め、人の一生を見据えた健康長寿社会の実現のために歯科医療がどうあるべきかを考え、貢献する歯科医師のマインドを醸成する。 なおこの講義は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の一環として行われる。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 回復期、慢性期医療および在宅医療における「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療および在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し実践する。 個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 ・患者中心のチーム医療の意義を説明できる。 A-5-1) ・地域医療・地域保健のあり方を説明できる。 A-7-1) ・保健・医療・福祉・介護について説明できる。 B-2-2) ・在宅医療について説明できる。 E-5-1), F-3-7) ・介護医療について説明できる。 E-5-1), F-3-7) ・ACP・緩和ケアについて説明できる。 A-5-1)-⑦)			
対応するディプロマポリシー DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP7: 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP8: 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。 DP9: 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。 DP10: 離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。			
授業方法(学習指導法) 講義			
授業内容 8回予定。 在宅医療・介護医療における、地域医療、他職種との関わり、チーム医療、保健・医療・福祉・介護の連携、現状、人生の最期等について講義を行う。 講義内容の詳細は、都度提示する。			
キーワード	回復期医療、慢性期医療および在宅医療		
教科書・教材・参考書	指定無し		
成績評価の方法・基準等	課題レポートでの評価を行う。 出席、追試験、再試験等は学部規定に従う。		
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。		
備考(学生へのメッセージ)	かなり現場に近い講義シリーズになるが、自らが歯科医師としてどのように関わるかを想像しながら聴講していただきたい。		
実務経験のある教員による授業科目	・久松 徳子/大学病院における診療経験(摂食嚥下リハビリテーション治療・補綴治療) / 大学病院における診療経験をもとに摂食嚥下リハビリテーション治療に関する講義を行う。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	15	金	4	総論	久松	講義室6B
2回	5	15	金	5	臨床課題	久松	講義室6B
3回	5	15	金	6	治療技術	久松	講義室6B
4回	5	22	金	4	医学的管理	久松	講義室6B
5回	5	22	金	5	緩和ケア・ACP	久松	講義室6B
6回	5	22	金	6	小児	久松	講義室6B
7回	5	29	金	6	BCP	久松	講義室6B
8回	6	3	水	3	連携	久松	講義室6B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号	25054622		
科目ナンバリング・コード	DNGD33341990		
授業科目名/(英語名)	統合医療学/(Integrative Medicine)		
対象年次 5 年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 PBL 室・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	和気裕之(非常勤講師), 達 聖月, 今村 明(非常勤講師), 藤山理恵, 松島加代子(非常勤講師), 三谷和男(非常勤講師), 松尾朋博(非常勤講師), 坂井詠子, 川口 哲(非常勤講師), 常田洋平(非常勤講師)		
授業の概要 統合医療は医療システムの一つであり, 代替医療と同一ではない。すなわち, 近代西洋医学を前提として, これに代替医療や伝統医学等を組み合わせて, 更に QOL(Quality of Life: 生活の質)を向上させる医療である。本講義の中ではそのすべてを修得することは困難であるが, まず, 歯科心身症について, 体系的に学ぼうとする態度および問題解決志向に対する理解を深める。さらに東洋医学の基礎理論から臨床応用まで幅広く学習することで得られた知識は歯科領域において今後発展性が期待できる分野である。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 安心・安全・快適な歯科治療を全ての患者に提供するための, 疼痛の発生機序を理解し, 口腔顎顔面痛の診断・治療法について他職種で共有できる共通言語を体系的に応用できる能力を身につける。また, 医科歯科連携における東洋医学の役割を理解し, 歯科臨床における重要性を認識する。			
個別行動目標 SBOs:			
1. 身体を構成する組織と器官, 神経系について説明できる。	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 C-3-4)-(5)神経系, C-3-4)-(6)感覚器系と感覚		
2. 口腔顔面痛, 歯科心身症の診断に必要な診察の基本診察方法について説明できる。	E-1-1)診察の基本 E-2-4)口腔・顎顔面領域の疾患		
3. 歯科医療に必要な麻酔と全身管理について説明できる。	E-5-3)精神・心身医学的疾患		
4. 口腔・顎顔面領域の常態と疾患について説明でき, 診断・治療法について説明できる。			
5. 東洋医学的診断法を説明できる。	C-6 生体と薬物		
6. 東洋医学の手技・手法を説明できる。	C-6-1) 薬物と医薬品		
7. 漢方処方について医科と対診できる。	C-6-2) 薬理作用		
8. 歯科臨床における漢方処方を理解できる。	C-6-3) 薬物の適用と体内動態		
9. 舌診を行うことができる。	C-6-4) 薬物の副作用と有害作用		
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ, リサーチマインドを修得している。			
授業方法(学習指導法) PBL, 講義及び自己学習に加え実習を併用して学習する。			
授業内容 1 回目: 歯科診療に必要な心身医学 1 2 回目: 歯科診療に必要な心身医学 2 3 回目: 口腔顎顔面領域の慢性の痛みに対する見方と対応 4 回目: 心身歯科 5 回目: 味覚へのアプローチ 6 回目: 一般外来, 消化器内科外来での使用の実際 7 回目: 舌診のすべて 1 8 回目: 舌診のすべて 2 9 回目: 舌診のすべて 2 10 回目: 泌尿器科領域と漢方			

11 回目： 歯科漢方処方 12 回目： 精神科臨床と漢方 13 回目： 漢方最前線	
キーワード	歯科心身症, 心身医学, 精神医学, 東洋医学, 漢方, 医科歯科連携
教科書・教材・参考書	1) デンタルスタッフのための歯科心身症ガイドブック. 和気裕之, 澁谷智明, 目加田まり. 医歯薬出版, 東京, 2015. 2) サイコ・デンティストリー 歯科医のための心身医学・精神医学 第二版. 和気裕之. 砂書房, 東京, 2015. 3) 口・あご・顔の痛みと違和感の対処法-原因がはっきりしないケースで困ったら. 和気裕之, 玉置勝司, 宮岡等. ヒョーロン, 東京, 2013. 4) 新・顎関節症はこわくない. 木野孔司, 杉崎正志, 和気裕之. 砂書房, 東京, 2011. 5) 歯科漢方医学. 歯科漢方医学教育協議会監修, 永末書店 6) 続今日からあなたも口腔漢方医. 王宝禮・王龍三編, 医歯薬出版 7) 入門歯科東洋医学(第2版). 日本歯科東洋医学会編 8) 舌診論[改訂増補版]新・臨床中医学舌診篇. 陳 勇著, 花乱社
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度を重視(40%)し, 授業後に実施するアンケートを加えて評価する.
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	2012年3月, 長崎大学病院に, 「オーラルペイン・リエゾン外来」が開設されて以来, 歯科心身症と口腔顔面痛の評価と管理は, 歯科と医科との緊密な医療連携(リエゾン診療を含む)の下で行われている. 一連の講義を通して, 口腔顔面痛にかかる歯科心身症に対する理解を深めて欲しい. また, 一連の漢方に関わる講義には, 実際の臨床につながるヒントが多く含まれている. 臨床家に対して礼を失しないように. 講義日程が複雑なので注意すること。
実務経験のある教員による授業科目	・和気 裕之／歯科診療所における実務経験／診療経験を基に歯科診療に必要な心身医学について教授している ・達 聖月／大学病院における歯科診療行為／自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義形式の授業を行っている ・今村 明／大学病院における診療経験／大学病院における診療経験(精神医学)を元に精神医学に関する講義を行っている ・藤山 理恵／大学病院における歯科診療行為／自らの診療経験を元に, 味覚に関する基礎および臨床について講義・実習形式の授業を行っている ・松島 加代子／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為(消化器内科)を元に漢方医療の実際について講義形式の授業を行っている ・三谷 和男／診療所における診療行為／自らの診療経験を元に, 舌診の有用性について講義形式の授業を行っている ・松尾 朋博／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為(泌尿器科)を元に漢方医療の実際について講義形式の授業を行っている ・川口 哲／診療所における診療行為／自らの診療経験を元に, 精神科領域における漢方医療の実際について講義形式の授業を行っている ・常田 洋平／研究職／製薬会社での研究職の経験を活かし, 漢方薬理の最新情報について講義形式の授業を行っている

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	11	木	4	歯科診療に必要な心身医学	和気裕之	講義室6B
2回	6	11	木	5	歯科診療に必要な心身医学	和気裕之	講義室6B
3回	6	22	月	1	口腔顔面領域の慢性の痛みに対する見方と対応	達 聖月	講義室6B
4回	6	25	木	4	心身歯科	今村 明	講義室6B
5回	6	29	月	1	味覚へのアプローチ	藤山理恵	講義室6B
6回	7	8	水	6	一般外来, 消化器内科外来での使用の実際	松島加代子	講義室6B
7回	7	9	木	4	舌診のすべて1	三谷和男	講義室6B
8回	7	9	木	5	舌診のすべて2	三谷和男	講義室6B
9回	7	9	木	6	舌診のすべて3	三谷和男	講義室6B
10回	7	15	水	4	泌尿器科領域と漢方	松尾朋博	講義室6B
11回	7	16	木	4	歯科漢方処方	坂井詠子	講義室6B
12回	7	16	木	6	精神科臨床と漢方	川口 哲	講義室6B
13回	7	21	火	2	漢方最前線	常田洋平	講義室6B

臨床実習（5年次生，6年次生）

臨床実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・307

年度 2026 学期 年度跨り	曜日・校時 月～金・1～7	必修選択 必修	単位数 43
科目番号	25044801		
科目ナンバリング・コード	DNGD44031991		
授業科目名/(英語名)	臨床実習/(Undergraduate clinical training of dental practice)		
対象年次 5・6 年次	講義形態 実習形式(一部講義形式)	教室 長崎大学病院他	
対象学生(クラス等)	第 5 学年前期～第 6 学年前期	科目分類 臨床実習	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝(臨床実習実施委員長), 近藤好夫(臨床実習室室長), 多田浩晃(臨床実習室副室長), 久松徳子(医療教育開発センター), 住田吉慶(先進口腔医療開発学), 今給黎 明(口腔保健学), 佛坂斉社(歯科矯正学), 日高 聖(小児歯科学), 江越貴文(保存修復学部門), 松裏貴史(歯周歯内治療学), 張 暁旭(口腔インプラント学), 吉田和弘(歯科補綴学), 安田光佑(口腔顎顔面外科学), 片山郁夫(口腔診断情報科学), 達 聖月(歯科麻酔学), 鮎瀬てるみ(特殊歯科総合治療部), 山下裕美(歯科法医学), 黒木唯文(口腔管理センター), 木村泰男(臨床教授)		
授業の概要 臨床実習は附属病院, その他の医療現場において, 実際に患者と接しながら, 指導医の指導・監督の下に実施すべき内容であり, 登院前の臨床開始前実習および実際に患者の診療を行う診療参加型臨床実習で構成される。臨床実習においては, 総合的な診療能力の基本としての知識, 技能及び態度を修得するために, 個々について独立して行うのではなく臨床実習全体を通して体系的に行わなければならない。また法令を遵守し, 社会制度や歯科医療関連法規に沿った診療を行うことを学ぶ。 臨床開始前実習では, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム に示される F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))に基づき, 診療行為全般に対する準備教育を行う。 診療参加型臨床実習においては, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム に示される G 臨床実習に基づき, 基本的な診察や技能を修得し, 歯科医学・医療の進歩と改善に資するために, 臨床を通して研究意欲と基礎的素養を身に付け, 卒業後に歯科医師としての資質・能力を涵養することを目標とする。その達成のためには, できるだけ自験を行うことが必要であり, 別表(305～306 頁)にある「臨床実習の内容と分類」に記載した実習内容を参照し実習を行う。			
授業到達目標 口腔の健康を通じて人の命と生活を守る歯科医師としての職責への自覚を高めるとともに, 患者およびその家族と良好な人間関係を構築する能力, 患者の全人的理解に基づく基本的歯科診療を実践する能力, そして自ら問題を発見して自己学習によってそれを解決する能力を培う。 各診療科等の一般目標(GIO) 1) 良好な患者―歯科医師関係を築くとともに, 患者の情報を聴取し仮診断をして適切な診療科へ引き継ぐための知識, 技能および態度を修得する。 2) 地域歯科保健活動を実践するために必要な基本的知識・技能および態度を修得する。 3) 矯正模型分析に必要な基本的な技能を修得する。矯正診断と治療評価に必要な知識, 技能および態度を修得する。 4) 小児歯科臨床に必要な知識, 技能および態度を修得する。 5) コンポジットレジン修復についての知識, 技能および態度を修得する。 6) 根管治療についての知識, 技能および態度を修得する。 7) 歯周疾患治療のために, 歯周基本治療についての知識, 技能および態度を修得する。 8) クラウンブリッジによる補綴歯科治療についての知識, 技能および態度を修得する。 9) 患者を中心とした歯科医療の実践に必要な有床義歯治療の知識, 技能および態度を修得する。また摂食嚥下障害も含め, 口から食べることを歯科医師として理解する。 10) 顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し, 診断を導く思考力および判断力を養い, 全身管理も含めた治療方針を決定する能力を身につける。 11) 各種疾患の診断に必要な画像検査を選択し, 画像診断の方法を修得するとともに, 放射線防護の実践のための基本的知識, 技能を修得する。 12) 患者の全身状態を把握する意義を学び, 全身状態に配慮した, 安全な歯科診療の基本を理解する。 13) 障害者および有病者の診療に参加することにより, これらの患者に対する口腔管理を体得し, ノーマライゼーションの概念, 口腔管理の重要性を理解し, 「口の健康を通して人の生活の質(QOL)を守る」という歯科医師の役割を理解する。 14) 災害, 事故, 犯罪等の身元不明死体における個人識別(身元確認)の重要性を理解する。		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習)) F-1 診療の基本 F-1-1) 口腔内の診察・記録 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査 F-3 基本的臨床技能 F-3-1) 共通事項 F-3-2) 歯科保健指導 F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の治療 F-3-4) 歯質と歯の欠損の治療 F-3-5) 小手術・口腔粘膜疾患の治療 F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療 F-3-7) 高齢者・障害者等患者への治療 G 臨床実習 G-1 診療の基本 G-1-1) 臨床診断・治療計画 G-1-2) 医療安全・感染対策 G-2 基本的診察法 G-3 基本的臨床技能 G-4 チーム医療・地域医療 G-5 患者中心の医療	

<p>授業方法(学習指導法)</p> <p>臨床開始前実習(OSCEに合格している場合はその一部を免除することがある)</p> <p>病院歯科外来および入院病棟における臨床実地全般</p> <p>離島歯科医療・福祉・保健実習</p> <p>歯科健診等地域医療実習</p> <p>臨床歯学セミナー</p>	
<p>対応するディプロマポリシー</p> <p>DP3 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。</p> <p>DP4 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。</p> <p>DP5 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。</p> <p>DP6 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。</p> <p>DP7 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。</p> <p>DP8 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>DP9 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。</p>	
<p>授業内容</p> <p>「臨床開始前実習の手引き」「臨床実習の手引き」参照</p>	
キーワード	診療参加型臨床実習, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム
教科書・教材・参考書	特に指定しない
成績評価の方法・基準等	<p>1. 出席(実習であるため各分野実習全日程の4分の3以上が必要)</p> <p>2. 各分野が設定する到達目標をすべて達成すること</p> <p>3. 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC PX)に合格すること</p> <p>4. 臨床知識理解度試験に合格すること</p> <p>以上の点について総括的評価を行い、臨床教育委員会の承認を受け可否を判定する。</p>
診療参加型臨床実習受講要件(履修条件)	第5学年前期までの全科目および共用試験(CBT, OSCE)に合格すること。
備考(学生へのメッセージ)	<p>【臨床実習の手引き 序言より抜粋・改変】</p> <p>歯学教育における卒前の臨床教育は、歯科医師としての考え方、知識、技術を修得するための最も重要な実習である。これまで諸君が経験してきた教育は学生と教員の共同作業であった。しかし、臨床実習はこの中に患者という病んだ第三者が介在する全く新しい授業形態である。諸君はまずこのことを心してほしい。加えて臨床実習は諸君の勉学意欲の如何によって得るものの質と量に大差がつくという危うさも持ち合わせている。諸君の積極的な学習を期待したい。</p> <p>本学部における臨床実習の特徴は、個々の臨床実習生に患者を担当させ、実際に診療行為を行わせることである。これは、自分で主体的に行うことが生きた成果を獲得しやすく、意欲も湧いてくるという教育理念に基づくものである。しかし、現時点では歯科医師としての資格のない諸君が行うのであるから、インストラクターの監督下でしか許されないという制約があるのは当然である。見守るインストラクターの心労も察して欲しい。医療を学ぶ者として、また、次回来院してもらうためにも、患者さんの信頼を失わない努力を心がける必要がある。</p> <p>令和3年5月28日歯科医師法が一部改正され、臨床実習に対する社会の考え方が大きく変革されることとなった。以下に条文の一部を抜粋する。</p>

	<p>歯科医師法第 17 条 歯科医師でなければ歯科医業をなしてはならない。</p> <p>歯科医師法第 17 条の2 大学において歯学を専攻する学生であつて、当該学生が臨床実習を開始する前に修得すべき知識および技能を具有しているかどうかを評価するために大学が共用する試験として厚生労働省令で定めるものに合格したものは、前条の規定にかかわらず、当該大学が行う臨床実習において、歯科医師の指導監督の下に、歯科医師として具有すべき知識および技能の修得のために歯科医業(政令で定めるものを除く。次条において同じ。)をすることができる。なお、上記は令和 6 年 4 月 1 日より施行される。</p> <p>社会はもはや諸君を学生では無く歯科医師として位置付け、知識、技能の修得に期待を寄せていると言うことである。裏返せば、社会は諸君にプロフェッショナルとしての態度、行動を求めていることに他ならない。</p> <p>臨床実習は主として病院本館6階の歯科系診療部門内臨床実習室をホームグラウンドとして行われるが、これだけでは症例が限定される。そこで、少人数のグループ単位で各科へ出かける特別実習も組まれている。</p> <p>さらに、これらの臨床実習が病院内における日常業務の一環として行われていることにも留意すべきである。カルテを出したり料金を受け取ったりする事務職員や、器材の整備、発注をする歯科衛生士、看護師など全職員の支援を受けて成り立っていることを忘れてはならない。</p>
<p>実務経験のある教員による 授業科目</p>	<p>別冊「臨床実習の手引き」に記載の担当教員全員／長崎大学病院での歯科臨床経験／診療実務経験を活かし、診療能力としての基本的知識、技能、態度を修得するための指導を行う。</p>

臨床実習の内容と分類

Gの項目		I. 指導者のもと実践する (自験を求めるもの)	II. 指導者のもとでの実践が望まれる (自験不可の場合は シミュレーション等で補完する)	
1 診療の 基本	臨床診断・ 治療計画	診断と治療計画の立案(咬合が安定している)	診断と治療計画の立案(咬合を安定させる処置が必要)	
	病態写真 ・模型	口腔・顔面の写真撮影、研究用模型の製作		
	診療録・ 処方箋	診療録の作成、処方箋の作成、技工指示書の作成		
2 基本的 診察法	医療面接	医療面接(成人)	医療面接(高齢者)	
	バイタルサイン	血圧・脈拍・呼吸・体温の測定		
	頭頸部・ 口腔の診察	頭頸部・口腔の視診・触診・打診・聴診		
	画像検査	口内法エックス線撮影	パノラマエックス線撮影	
	臨床検査	温度診、電気診、透照診		う蝕リスク検査
		根管長測定		根管内細菌培養検査
		歯周組織検査(歯の動揺度検査、歯周ポケット検査、 ブランク指数測定、歯石指数測定、出血指数測定)		
咬合検査			咀嚼能率検査	
3 基本的 臨床技能	共通	手洗い(衛生的・手術時)、滅菌手袋の装着、ガウン の装着 局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)	局所麻酔(伝達麻酔)	
		中間技工物の製作(咬合床、トレー 他)		
		ポートフォリオの作成	症例報告資料の作成と実施	
		口腔外科系	永久歯の単純抜歯	小膿瘍切開、縫合、抜糸
	保存系	コンポジットレジン修復(単純窩洞)、メインテナンス、 象牙質知覚過敏処置	コンポジットレジン修復(複雑窩洞)、補修修復、メタル インレー修復(複雑窩洞)、グラスイオノマーセメント 修復	
		ラバーダム防湿、感染根管治療(根管充填を含む:単 根歯)	覆髄法(直接・間接)、暫間的間接覆髄法、歯髄鎮痛 消炎療法、抜髄法、感染根管治療(根管充填を含む: 複根歯)	
		歯周基本治療(プラークコントロール指導、スケーリン グ・ルートプレーニング)、メインテナンス	歯周基本治療(咬合調整)、暫間固定(簡単なもの)	
	補綴・ リハビリ系	クラウンによる補綴治療(支台歯形成、但し支台築造 を除く)、プロビジョナルレストレーション、メインテナンス	支台築造(メタルポストコア、レジンポストコア、ファイ バーポストコア) 平行関係に問題のないブリッジの支台歯形成と補綴 治療	
		可撤性義歯による簡単な欠損補綴治療、可撤性義歯 の簡単な修理・調整、メインテナンス	可撤性補綴装置による欠損補綴治療、補綴装置破損 の修理・調整、メインテナンス	
	予防・ 指導系	口腔清掃	フッ化物塗布、予防填塞	
セルフケアに対する動機づけ、口腔衛生指導		食事指導、食育指導、高齢者に対する栄養指導、生 活習慣に関する指導、禁煙指導・支援		
小児・ 矯正系	診療の基本、予防・指導系に同じ	模型分析・頭部エックス線規格写真分析、診断、治療 計画の立案		
	高齢者・障害者			
4 チーム医療・地域 医療	地域包括ケアシステムの体験	社会福祉施設等での歯科保健指導 地域歯科保健活動		

※自験の定義:指導歯科医の管理・監督の下で、学習者が実際に歯科医行為を経験する実習
(「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告を踏まえた第3回フォローアップ調査まとめ(平成28年3月31日)」より抜粋)

Ⅲ. 指導者の介助をする	Ⅳ. 指導者のもとで見学・体験することが望ましい
診療情報提供書(医科診療所・病院・病院歯科・施設宛て等)の作成	手術記録・麻酔記録の作成
医療面接(小児・障害者等)	医療面接(救急処置の必要な場合)
	救急処置の治療
口外法エックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、歯科用CBCT	CT、MRI、超音波検査、造影検査
塗抹検査	採血、血液検査、免疫学的検査、生化学検査、一般細菌検査、心電図検査、呼吸機能検査、心理学的検査、止血機能検査、末梢神経機能検査
	根管内視鏡検査、実体顕微鏡による検査
	口臭検査
唾液分泌能検査、顎口腔機能検査、舌圧検査	金属アレルギー検査
	嚥下機能検査
	細胞診検査、病理組織学的検査
精神鎮静法と周術期管理	全身麻酔法と全身管理 入院患者管理
永久歯の複雑抜歯、小手術(埋伏歯の抜歯、歯根端切除術 他)	全身麻酔下での口腔外科手術
セラミックインレー修復、レジンインレー修復、ラミネートベニア修復、生活歯の漂白処置	レーザーによるう蝕除去
外傷歯の処置、失活歯の漂白処置、歯内-歯周病変の処置、断髄法、アペキシフィケーション、ヘミセクション	外科的歯内療法(歯根端切除等)、歯の再植と移植
暫間固定(複雑なもの)、歯周外科手術(歯周ポケット搔爬術 他)	永久固定、歯周外科手術(フラップ手術 他)
困難なクラウンブリッジの支台歯形成と補綴治療	可撤性支台装置による複雑な欠損補綴治療、デンタルインプラント、顎関節症治療、CAD/CAM法
困難な可撤性補綴装置による欠損補綴治療、複雑な補綴装置破損の修理・調整、摂食嚥下リハビリテーション	顎顔面欠損補綴治療
フッ化物洗口法の実施指導等	
学校歯科健康診断等での保健指導、小児等に対する歯科保健指導	
乳歯のう蝕治療、乳歯の単純抜歯、断髄法、簡単な装置の作成	行動変容法、咬合誘導、保隙処置、包括的矯正治療
障害者の歯科治療 口腔衛生指導 移乗	薬物的行動調整下での歯科治療 在宅医療 医療連携
在宅医療(口腔清掃を含む)	地域包括ケアシステムを踏まえた病診・病病連携、多職種連携によるチーム医療

研究科目（3年次生、4年次生、5年次生、6年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論	(3年)	313
基礎歯学研究	(3・4年)	315
臨床歯学研究概論	(4年)	317
歯学研究	(5・6年)	320

年度 2026 学期 通年	曜日・校時 5 年次/(前)火・8 (後)水・7 6 年次/(前)水・7	必修選択 選択	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104904 DNDR44051993 歯学研究/(Dental Research)		
対象年次 5 年次、6 年次	講義形態 実験形式	教室	各基礎系、臨床系研究室
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類	研究科目
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00~17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、片瀬直樹、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、住田吉慶、吉田教明、藤田優子、吉村篤利、瀬瀬 隆、村田比呂司、山田朋弘、讃岐拓郎、倉田眞治、平曙輔、山田志津香、角 美佐 他		
授業の概要			
本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究室で研究を行い、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とする。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 配属先の基礎・臨床歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加 A-8-1) する。			
個別行動目標 SBOs: 配属先の基礎系・臨床系研究室で歯学研究活動を行うことができる。			
対応するディプロマポリシー			
DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。 DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。 DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的の研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
各基礎、臨床系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。			
授業内容			
○ 5 年次: 前期火曜日 8 校時、後期の水曜日 7 校時(60 分×30 回) 6 年次: 前期の水曜日 7 校時(60 分×15 回) 予定 ※実験など内容によっては回数や時間数に変更になる場合もある。 ○ 各コース内容に関しては次頁の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。			
(基礎系コース)			
1. 顎顔面解剖学: 顎顔面領域形質の小進化について、解剖体や人骨資料をもとに解析を行う。 2. 硬組織発生再生学: 発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨・軟骨生物学に関する研究を行う。 3. 加齢口腔生理学: 体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。 4. 口腔病原微生物学: 細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定。 5. 歯科薬理学: 実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定。 6. 生体材料学: 歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定。 7. 分子腫瘍生物学: 遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。 8. フロンティア口腔科学: 培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。			
(臨床系コース)			
9. 歯科矯正学: 矯正力による歯の移動に関する基礎、臨床研究を行う。 10. 小児歯科学: 小児の口腔機能に関する研究を行う。 11. 歯周歯内治療学: 歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々なリスク因子の評価法について学習する。 12. 口腔インプラント学: 生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 13. 歯科補綴学: 補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究 14. 先進口腔医療開発学: 口腔領域の再生医療に関するトランスレーショナル研究を学ぶ。 15. 口腔診断・情報科学: 顎顔面腫瘍を対象に、MR 機能画像を用いた臨床研究を行う。 16. 歯科麻酔学: 動物での基礎研究、人での臨床研究の手法を学ぶ。 17. 歯科補綴学(保存修復学部門): 歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。 18. 口腔顎顔面外科学: 口腔癌や薬剤関連顎骨壊死の臨床病理学的研究、及び顎変形症などの変形性疾患に対する臨床研究について概説する。 19. 口腔保健学:			
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材		

成績評価の方法・基準等	主に発表内容、レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。
受講要件(履修条件)	希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限がかかる場合もある。全体を通じて総授業数の3/4以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	指導教員とよくディスカッションするように。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田 教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・藤田 優子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・吉村 篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・平 曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・澤瀬 隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・村田 比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・山田 朋弘／長崎大学病院における診療業務／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・住田 吉慶／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・角 美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・讃岐 拓郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・倉田 眞治／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・山田 志津香／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・入江 浩一郎／

コース表(歯学研究コース)

(基礎系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	顎顔面領域の形質の小進化について、解剖体資料や人骨資料からのデータ採取、解析、結果の解釈を行う。 定員は0名の予定	5年次/前期:火8 後期:水7 6年次/水7	小山田
2	硬組織発生再生学	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1~2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は0名の予定		片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1~2名の予定		内藤
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2~3名の予定		筑波 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 バラネザ*ハト
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。 定員は1~2名の予定		伊藤 大谷 上野
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ 定員は2名の予定		門脇 佐藤 小野寺

コース表

(臨床系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
10	歯科矯正学研究	教員の指導のもと、矯正力による歯の移動や歯根吸収のメカニズムに関する基礎、臨床研究の手法を学ぶ。 定員は2～3名の予定	5年次/前期:火8 後期:水7 6年次/水7	吉田 佛坂 富永 濱中
11	小児歯科学研究	遺伝生化学的実験研究、あるいは小児・障害者を対象とした臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		藤田
12	歯周歯内治療学研究	歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について、どのような方法でそれぞれのリスクを評価するのか学習する。 定員は2～3名程度の予定		吉村 岩下 柳口 坂本
13	口腔インプラント学研究	生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 定員は1～2名の予定		澤瀬 尾立 右藤
14	歯科補綴学研究	当教室が行っている補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究について概説します。これらの中から指導教官とテーマを決め、実験を行います。 定員は2～3名程度の予定		村田 原田 鳥巢
15	先進口腔医療開発学研究	顎骨や粘膜、唾液腺疾患に関する再生医療のトランスレーショナル研究に参加し、医師主導治験を含めた臨床試験の展開方法を学ぶ。 定員は1～2名の予定		住田 井 坂井 Stefan
16	口腔診断・情報科学研究	頭頸部腫瘍を対象に、MR機能画像を用いた臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		角 高木
17	歯科麻酔学研究	教員の指導のもと、実験動物を用いた基礎研究の方法、人での臨床研究の方法、実験で得られた呼吸・循環系の測定値の評価について学ぶ。 定員は2～3名の予定		讃岐 倉田
18	修復学研究(歯科補綴学)	教員の指導のもと、歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。 定員は1名の予定		平 山田 介田 江越
19	口腔顎顔面外科学研究	口腔癌に関する基礎的、臨床的研究 顎変形症等に関する臨床的研究 定員は3名程度の予定		山田
20	口腔保健学研究	口腔と全身との関連性を見だし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。 定員は1～2名の予定	入江	